

# Contents & Schedules

LEVEL-2

# STAGE 1

ENGLISH GRAMMAR WORKBOOK  
STEP BY STEP

第1章 動詞  
第2章 助動詞  
第3章 不定詞・動名詞

■ STAGE 1	ページ	日付	得点
第1章 動詞	10	月 日	点
第2章 助動詞	20	月 日	点
第3章 不定詞・動名詞	30	月 日	点
◆中間テスト	40	月 日	点
■ STAGE 2	ページ	日付	得点
第4章 分詞	46	月 日	点
第5章 比較	56	月 日	点
第6章 関係詞	66	月 日	点
◆中間テスト	76	月 日	点
■ STAGE 3	ページ	日付	得点
第7章 前置詞・接続詞	82	月 日	点
第8章 時制・仮定法	92	月 日	点
第9章 名詞・代名詞	102	月 日	点
第10章 その他	112	月 日	点
◆中間テスト	122	月 日	点
口語表現	126	月 日	
単語・熟語リスト	128	月 日	

※問題を解いたあと、日付・得点を記入し、学習の指針などにしてください。



## 動詞

▶ 英文法を理解するには、まず動詞をしっかりと押さえなければなりません。特に自動詞と他動詞、基本5文型の区別がその中心となります。腰をすえて、これらをじっくり理解してから英文法の勉強を始めることが大切です。

## 1 まぎらわしい自動詞と他動詞

問 He was so tired that he  down and slept.

- ① laid      ② lied      ③ lain      ④ lay      [早稲田高]

動作がそれ自体で完結しているような意味をもち、直後にピリオドを打って文を終了できる動詞を**自動詞**といいます。また、他に働きかけるような意味をもち、直後に**目的語**(～を、～に、にあたる名詞)を必要とする動詞を**他動詞**といいます。

自動詞と他動詞で、最も試験によく出るのが、lieとlayの区別。lie(横たわる)は自動詞で、lie-lay-lainと活用します。lay(横たえる)は他動詞で、lay-laid-laidと活用します。空所の後ろには目的語にあたる名詞がないので、自動詞が入ると判断すること。文全体が過去形だから、④ layを入れば正解となります。

- ☐ lie-lay-lain (目 横たわる)      ☐ rise-rose-risen (目 上がる)  
☐ lay-laid-laid (罎 横たえる)      ☐ raise-raised-raised (罎 上げる)

解答⇒4 (訳:彼は非常に疲れていたで、横になって眠った。)

## 2 第2文型

問 Mother  very sad this morning.

- ① said      ② found      ③ watched      ④ looked

[目白学園高]

動詞の学習で、さらに重要なのが、**基本5文型**の理解です。基本5文型というのは、動詞の使い方の5種類の分類で、これも自動詞と他動詞の区別が基本になってきます。**第1文型**で使う動詞は**自動詞**。**第2文型**で使う動詞は、後ろに形容詞や名詞を置いて、主語とイコールの関係を作る**be動詞**や**become**などの**自動詞**。**第3文型**で使う動詞は、目的語を1つとる**他動詞**。**第4文型**で使う動詞は、目的語を2つとる**他動詞**。**第5文型**で使う動詞は、後ろに目的語とその補足の言葉である補語をとる**他動詞**。第5文型のときには、目的語とその後ろにくる名詞や形容詞などの補語との間に「O=C」の関係が成り立つことに注意しましょう。

この問題では、主語と後ろの形容詞 sad との間に「母親=とても悲しい」という関係が成り立ちます。イコールの関係をとる第2文型の動詞は、この中には④ looked しかありません。look Cで、「Cに見える」という意味で使われます。

## 基本5文型型

↓ 動詞(V)

- 第1文型**: S V ..... 自動詞  
**第2文型**: S V C ..... イコールの働きの動詞  
**第3文型**: S V O ..... 他動詞  
**第4文型**: S V O O ..... 目的語を2つとる他動詞  
**第5文型**: S V O C ..... 後ろに **O=C** の関係を作る他動詞

解答⇒4 (訳:今朝、母はとても悲しそうだった。)

## 3 第5文型

問 I  the movie a very good one.

- ① knew      ② found      ③ liked      ④ looked

[明治大付属明治高<改>]

空所の後ろには the movie という目的語と、the movie とイコールの関係で結ばれる a very good one (とてもいいもの) という2つの要素がきています。the movie が目的語で a very good one は目的語を補う**補語(C)**です。この中で、イコールで結ばれる2つのものを後ろにとる第5文型で使われる動詞は、find の過去形 ② found だけ。find O C で「OがCだとわかる」という意味になります。

解答⇒2 (訳:私はその映画がとてもよいものだと思った。)



問1：次の英文の空欄に入れるのに最も適当なものを選び。

□1 He will [1] Kyoto tomorrow.

- ① reach                      ② come  
③ arrive                    ④ get

[洛星高]

□2 She [2] her plans with her mother.

単語

- ① discussed to              ② discussed about  
③ discussed on            ④ discussed

[日大習志野高]

□3 It [3] me 100 dollars to get a new bicycle.

- ① needed                    ② took  
③ cost                      ④ spent

[東海大浦安高]

□4 Don't [4] the train. It takes too much time.

- ① stop                      ② miss  
③ catch                    ④ take

[芝浦工大柏高]

□5 He [5] the soccer team.

- ① belongs                  ② is belonged  
③ belongs to              ④ is belonging to

[芝浦工大柏高]

□6 Will you [6] me your pencil?

難

- ① keep                      ② lend  
③ rent                      ④ borrow

[関東第一高&lt;改&gt;]

□1 彼は明日京都に着くだろう。

[1]⇒① reach

▶「～に到着する」という表現は、違いに注意して次の3つを覚えておくこと。reach は他動詞なので、reach ～ というように直接後ろに目的語を置くことができます。また、arrive や get は自動詞なので、それぞれ arrive at[in] ～, get to ～ と後ろに前置詞が必要になります。

□2 彼女は彼女の計画を母と話し合った。

[2]⇒④ discussed

▶「～について論じる」という日本語で考えると、about を付けたいと思いますが、discuss は他動詞なので、直後には目的語として名詞を置かなければなりません。discuss の後ろに前置詞がない④ discussed を選びましょう。

□3 新しい自転車を手に入れるのに100ドルかった。

[3]⇒③ cost

▶空所の後ろには、me と 100 dollars という2つの目的語が置かれているので、第4文型をとる動詞が入るとわかります。「cost 人 金」の形で、「人にお金がかかる」という意味になるので③ cost が正解。cost の活用は cost-cost-cost。

□4 電車は使わないで。時間がかかりすぎるよ。

[4]⇒④ take

▶「電車に遅れる」は miss the train, 「電車に間に合う」は catch the train, 「電車に乗る」は take the train を使います。ここでは、後ろに「時間がかかりすぎるよ」とあるので、文脈から「電車に乗る」という意味の④ take が正解だとわかります。

□5 彼はそのサッカーチームに所属している。

[5]⇒③ belongs to

▶ belong to ～ は「～に属する」という意味の重要熟語。belong は自動詞なので、後ろに名詞を置く場合には前置詞の to が必要となります。さらに、belong to ～ は状態を表す表現なので、現在進行形にはできないことに注意。ここでは、現在形の③ belongs to を選びましょう。

□6 あなたの鉛筆を貸していただけますか。

[6]⇒② lend

▶第4文型をとって「人に物を貸す」という意味になる表現は「lend 人 物」。ここでは、空所の後ろに me と your pencil という2つの目的語がきているので、② lend が正解です。ちなみに、④ borrow は「(無償で) 借りる」という意味。③ rent は「賃貸借する」、つまりお金を払ったりもらったりして貸し借りをするという意味になります。

□7 He [7] his son a doctor.

- ① became                      ② did  
③ made                        ④ helped

[駒澤大高]

□8 I was so tired that I [8] down and slept.

頻

- ① lay                            ② laid  
③ lain                          ④ lied

[東海大浦安高]

□9 In Paris I could not [9] myself understood in French.

- ① make                        ② set  
③ put                          ④ let

[東海大望洋高]

□10 I don't remember how to [10] "Thank you" in French.

難

- ① tell                            ② say  
③ talk                          ④ speak

[洛星高]

□7 彼は息子を医者にした。

[7] ⇒ ③ made

▶ make は第5文型の形で使われた場合、**make O C**で「OをCにする」という意味になります。Oの部分には名詞、Cの部分には名詞か形容詞の働きをするものがきて、OとCはイコールで結ぶことができなければなりません。ここでは、「彼の息子＝医者」という関係が成り立っています。

□8 私は非常に疲れていたので横になって眠った。

[8] ⇒ ① lay

▶ 自動詞 **lie**(横たわる)の活用は、**lie-lay-lain**。他動詞 **lay**(横たえる)の活用は、**lay-laid-laid**。ここでは、後ろに目的語がきていないので、自動詞だとわかります。また、過去のことをいっているので、lieの過去形である① layを選びましょう。

□9 パリで私はフランス語を理解してもらえなかった。

[9] ⇒ ① make

▶ **make oneself understood** は、「自分の考えを理解してもらう」という意味の重要熟語。この make は、**make O C**(OをCにする)という第5文型の形で使われています。oneselfには「自分の意図」という意味があるので、もともとの意味は「自分の意図が理解された状態にする」となります。

□10 私はフランス語で「ありがとう」をどのように言うのか覚えていない。

[10] ⇒ ② say

▶ **tell**(伝える)は他動詞で、人や物語などを目的語にとります。また、**say**(言う)は他動詞で、言葉などを目的語にとります。**talk**(おしゃべりをする)は自動詞。**speak**(話す)も自動詞ですが、English(英語)などの言語を目的語とする場合は他動詞として使われます。ここでは、後ろに“Thank you”という引用符で囲まれた言葉が目的語として直接きているので、他動詞の② sayを選びましょう。



問2：日本語に合う英文になるように選択肢の語を並べかえ、空欄に入るものを選び。

- 11 その本を2、3日貸してください。

Please \_\_\_\_\_ 11 \_\_\_\_\_ 12 .  
 ① a                      ② book                      ③ few                      ④ days  
 ⑤ the                      ⑥ for                      ⑦ me                      ⑧ lend

[城北高]

- 12 あそこで歌っている少女はうれしそうです。

\_\_\_\_\_ 13 \_\_\_\_\_ 14 .  
 ① singing              ② who                      ③ the                      ④ happy  
 ⑤ there                      ⑥ girl                      ⑦ is                      ⑧ seems

[志学館高<改>]

- 13 ジムは息子の15歳の誕生日に、ギターをプレゼントした。

\_\_\_\_\_ 15 \_\_\_\_\_ 16 \_\_\_\_\_ on his fifteenth birthday.  
 ① a                      ② gave                      ③ his                      ④ Jim  
 ⑤ guitar                      ⑥ son

[正則高]

- 14 おじさんからの手紙を読んで彼女はうれしかった。

\_\_\_\_\_ 17 \_\_\_\_\_ 18 \_\_\_\_\_ .  
 ① made                      ② her                      ③ her                      ④ letter  
 ⑤ uncle                      ⑥ the                      ⑦ from                      ⑧ happy


[郁文館高]

- 15 学校には仲のよい友達が大勢います。

\_\_\_\_\_ 19 \_\_\_\_\_ 20 \_\_\_\_\_ my school.  
 ① a                      ② in                      ③ I                      ④ have  
 ⑤ of                      ⑥ friends                      ⑦ lot                      ⑧ good

[東海大浦安高]

- 16 あなたはその質問が易しいのがわかるでしょう。

 You \_\_\_\_\_ 21 \_\_\_\_\_ 22 \_\_\_\_\_ .  
 ① question              ② the                      ③ easy                      ④ find  
 ⑤ will

[正則高]

- 11 Please **lend me the book for a few days.**

11 ⇒ ⑦ 12 ⇒ ③ (8-7-5-2-6-1-3-4)

▶ lend という動詞は第4文型をとり、「lend 人物」の形で「人に物を貸す」という意味になります。また、この表現は「lend 物 to 人」と書き換えることもできます。

- 12 **The girl who is singing there seems happy.**

13 ⇒ ⑥ 14 ⇒ ⑧ (3-6-2-7-1-5-8-4)

▶ seem という動詞は後ろに形容詞を置いて、「…に見える、…に思える」という意味で使うことができます。主語は「あそこで歌っている少女」なので、The girl の後ろに関係代名詞の who を置いて表します。

- 13 **Jim gave his son a guitar on his fifteenth birthday.**

15 ⇒ ② 16 ⇒ ⑥ (4-2-3-6-1-5)

▶ give という動詞は、「give 人物」という第4文型の形で「人に物を与える」という意味になります。これは、「give 物 to 人」にも書き換えることができます。

- 14 **The letter from her uncle made her happy.**

17 ⇒ ④ 18 ⇒ ① (6-4-7-2(3)-5-1-3(2)-8)

▶ make という動詞は、さまざまな文型で使うことができますが、第5文型の make O C(OをCにする)という形は特に重要です。なお、Oの部分には必ず名詞、Cの部分には名詞や形容詞が置かれることに注意しましょう。

- 15 **I have a lot of good friends in my school.**

19 ⇒ ④ 20 ⇒ ⑦ (3-4-1-7-5-8-6-2)

▶ 「～がいる」、「～がある」という場合、英語では have を使うことができます。例えば、「学校には図書館がある」は、Our school **has** a library. と表すことができます。ここでも、友達がいることを have を使って表現しています。

- 16 **You will find the question easy.**

21 ⇒ ④ 22 ⇒ ① (5-4-2-1-3)

▶ find という動詞は、第5文型の find O C という形で、「OがCだとわかる」という意味で使うことができます。Oの部分には必ず名詞、Cの部分には形容詞や名詞が置かれることに注意しましょう。



- 17 田舎へドライブに行きましょう。

\_\_\_\_\_ 23 \_\_\_\_\_ 24 \_\_\_\_\_

- ① a drive      ② for      ③ go      ④ let's  
⑤ the country      ⑥ in

[正則高]

- 18 この夏はとても雨が少なかった。

We \_\_\_\_\_ 25 \_\_\_\_\_ 26 \_\_\_\_\_

- ① this      ② rain      ③ little      ④ summer  
⑤ very      ⑥ had

[東海大望洋高]

- 19 ここから家まで電車で1時間かかります。

◆ It \_\_\_\_\_ 27 \_\_\_\_\_ 28 \_\_\_\_\_ by train.

- ① an hour      ② from      ③ my house      ④ to  
⑤ here      ⑥ takes

[貞静学園高]

- 20 彼から月に2回便りがあります。(1語不要)

I \_\_\_\_\_ 29 \_\_\_\_\_ 30 \_\_\_\_\_

- ① twice      ② hear      ③ letter      ④ a  
⑤ him      ⑥ month      ⑦ from

[東京工業大学附属工業高]

- 17 Let's go for a drive in the country.

23 ⇒ ③ 24 ⇒ ① (4-3-2-1-6-5)

▶ 「ドライブに行く」は、go for a drive と表現できます。go という動詞は自動詞なので、後ろに名詞を続ける場合には、必ず前置詞を置かなければならないことにも注意しましょう。

- 18 We had very little rain this summer.

25 ⇒ ⑤ 26 ⇒ ② (6-5-3-2-1-4)

▶ 「雨が降る」という表現は、it を主語にして、It rains. ということができます。また、一般の人々を表す we[they] を主語にして、We[They] have rain. とすることもできます。「多い～・少ない～」は、rain のような数えられない名詞については、「much ～・little ～」を使います。

- 19 It takes an hour from here to my house by train.

27 ⇒ ① 28 ⇒ ④ (6-1-2-5-4-3)

▶ 「時間がかかる」という表現は、時間を表す it を主語にして、「It takes (人) 時間」という形を使います。これは、「(人に) 時間がかかる」という意味になります。また、「It costs (人) 金」という形は「(人に) お金がかかる」という意味になります。

- 20 I hear from him twice a month.

29 ⇒ ⑦ 30 ⇒ ① (2-7-5-1-4-6) 不要=③ letter

▶ 「便りがある」という意味を表現するには、hear from ～ (～から便りがある) という熟語を使います。この反対にあたるのは、write to ～ (～に手紙を書く)。「月に2回」は、twice a month といいます。この a には「～につき」の意味が含まれています。

※ 1 ～ 30 を各1点とする (30点満点)

CHECK YOUR LEVEL	1st TRY	2nd TRY	3rd TRY	
	30点	30点	30点	
				▶ 0 ～ 19 点 ➔ Work harder!
				▶ 20 ～ 24 点 ➔ OK!
				▶ 25 ～ 28 点 ➔ Way to go!
				▶ 29 ～ 30 点 ➔ Awesome!



## 助動詞

▶ 動詞の前に置かれて、動詞に可能や推量などの意味を付け加える働きをするのが助動詞。助動詞というと、can や will などがすぐに頭に思い浮かぶとは思いますが、例えば had better や used to のような表現も助動詞とみなされます。ここでは、入試に頻出の助動詞の問題と、さまざまな助動詞の区別の仕方を学んでいきます。

## 1 must not と don't have to の違い

問 “Must I come by five o'clock?” “No, you ☐ . You can come anytime.”

- ① mustn't                      ② can't  
③ don't have to                ④ may not

[駒込高]

must という助動詞は単独で使われると、後ろに原形動詞(V)をとって「Vしなければならない」「Vするにちがいない」などの意味になります。これに not を付けて、must not V とすると「Vしてはならない」という**禁止**の意味になります。「Vしなくてよい」という意味にはならないことに注意してください。

「Vしなくてよい」という意味を表現するには、don't have to V, don't need to V, need not V などの表現が使われます。need not V という表現での need は助動詞として使われていることにも注意しておきましょう。

ここでは、空所の後ろに「いつ来てもよい」という表現があるので、空所に入るのは「Vしなくてもよい」という意味を表す助動詞だということがわかります。答えは③ don't have to です。to の後ろに続くはずの come という動詞は、反復してくどいという理由で省略されているので to で終わっています。

解答⇒3 (訳:「5時までに来なくてはなりませんか。」「いいえ、そうしなくてもいいです。いつ来てもいいですよ。」)

## 2 助動詞の慣用表現

問 It looks like rain. We had better ☐ our umbrellas with us.

- ① carry            ② carrying    ③ carried    ④ to carry

[日大鶴ヶ丘高]

had better (Vした方がよい) は、2語で1つの助動詞の働きをする重要表現。後ろには**原形**の動詞を置かなければならないので、① carry を選ぶこと。

さらに頻出なのが had better の否定で、had better not V という形を使わなければなりません。× had not better としないように注意。ちなみに、had better V は非常に強い表現で、親が子に言い聞かせるような場合に使われます。

解答⇒1 (訳:雨が降りそうだ。傘を持っていった方がいい。)

- |   |                      |
|---|----------------------|
| <input type="checkbox"/> had better V                                   | ▶ Vした方がよい            |
| <input type="checkbox"/> had better not V                               | ▶ Vしない方がよい           |
| <input type="checkbox"/> ought to V                                     | ▶ Vすべきだ              |
| <input type="checkbox"/> ought not to V                                 | ▶ Vすべきではない           |
| <input type="checkbox"/> used to V                                      | ▶ 昔はVしたものだった (過去の習慣) |
| <input type="checkbox"/> need not V = don't have to V = don't need to V | ▶ Vしなくてよい            |

## 3 助動詞の意外な意味

問 You ☐ because you have walked for a long time.

- ① will be tired                      ② must be tired  
③ may not be tired                ④ cannot be tired

[専修大松戸高]

文の後半に「長い間歩いたので」とあるから、普通に考えれば主語の You は疲れているはず。状況からはっきりしていることを断定的に推量する場合には、「Vするにちがいない」という意味で must を使うことができます。「Vするにちがいない」という意味の must の後ろにはたいてい be 動詞がきます。

解答⇒2 (訳:長い間歩いているのだから、あなたは疲れているにちがいない。)



問1：次の英文の空欄に入れるのに最も適当なものを選び。

- 1 Yoshiko [1] be in Osaka, because I saw her at Tokyo Station only a few minutes ago.

① mustn't                      ② may not  
③ isn't able to                ④ can't

[東海大浦安高]

- 2 Must I go there? — No, you [2] .

① may not                      ② must not  
③ don't have to                ④ can not

[東海大浦安高]

- 3 You have a high fever, so you [3] go to school today.



① had not better to            ② had not better  
③ had better not                ④ had better not to

[日大習志野高]

- 4 "[4] we go to the park?" "Yes, let's."



① Will                      ② Would                      ③ Shall                      ④ Should

[日白学園高]

- 5 A drowning man [5] catch at a straw.

① will                              ② should  
③ need                              ④ would

[貞静学園高]

- 6 He [6] to go fishing in the river.

① might                      ② would                      ③ used                      ④ could

[東京学館浦安高]

- 1 ヨシコが大阪にいるはずがない。なぜならほんの数分前、私は彼女に東京駅で会ったからだ。

[1] ⇒ ④ can't

▶「私はヨシコを東京駅で数分前に見た」のだから、空所にはヨシコは大阪にいる「はずはない」という意味の助動詞が入ります。「……はずはない」という意味の助動詞は、can'tもしくはcannot。

- 2 私はそこに行かなくてはいけません。いいえ、その必要はありません。

[2] ⇒ ③ don't have to

▶ must は「Vしなければならない」という意味の助動詞ですが、must not は禁止を表して、「Vしてはならない」という意味になります。「Vする必要がない」と表現するときには、don't have to Vやdon't need to V、またはneed not Vなどの形を使わなければなりません。

- 3 あなたはひどい熱があるから、今日は学校へ行かない方がよい。

[3] ⇒ ③ had better not

▶ had better Vは「Vした方がよい」という表現ですが、この表現を否定にする場合には、had better not Vとしなければなりません。× had not better としないように not の位置に注意しましょう。

- 4 「公園に行きませんか。」「はい、行きましょう。」

[4] ⇒ ③ Shall

▶助動詞 shall を使った Shall we V? という表現は、「Vしましょう」という Let's V. と同じ意味になります。この問いかけに対しては、「Yes, let's.」という答え方をするので、こちらもしっかりと覚えておきましょう。

- 5 溺れる者はわらをもつかむ。(ことわざ)

[5] ⇒ ① will

▶助動詞 will は、未来を表すのと同時に主語の習性や必然的に起こることがらを表して、「Vするものだ」という意味で使われます。この文はことわざなので、まるごと覚えておきましょう。

- 6 彼はその川に釣りに行ったものだった。

[6] ⇒ ③ used

▶「昔はVしたものだった」という意味を表すには、used to Vという表現を使います。used to Vは、過去の規則的な習慣や状態を表す頻出表現です。「used to」が1つの助動詞の働きをしていると考えましょう。



□7 You [7] to use this English dictionary. I think it is much better.

- ① must      ② may      ③ ought      ④ should

[東京工業大附属工業高<改>]

□8 This movie was extremely interesting. You [8] have come with us.

- ① should      ② would      ③ must      ④ will

[英検準2級]

□9 Something [9] have happened to Bob yesterday. He looked very sad at school.

- ① would      ② ought to      ③ must      ④ should

[英検準2級]

□10 “ [10] I wash your car?” “No, thank you.”

- ① Will      ② Shall      ③ Do      ④ Can

[東京工業大附属工業高<改>]

□7 あなたはこの英語の辞書を使うべきだ。私はこの方がずっとよいと思う。

[7]⇒③ ought

▶空所の後ろに to がきていることに注意。① must, ② may, ④ should などの助動詞は、後ろに動詞の原形をとるので不正解。ought to V は、「Vすべきだ、Vするはずだ」という should V と同じ意味になります。

□8 この映画はとてもおもしろかった。あなたは私たちと来るべきだったのに。

[8]⇒① should

▶助動詞の後ろに完了形を置くと、現在から過去のことを推測したり、後悔したりする表現になります。例えば、should have Vpp は「Vすべきだったのに」という、過去に対する後悔を表します。ちなみに、must have Vpp は過去に対する強い推量を表し、「Vしたにちがいない」という意味になります。

□9 昨日ボブに何か起きたにちがいない。彼は学校でとても悲しそうに見えた。

[9]⇒③ must

▶「ボブは学校で悲しそうに見えたから、昨日何かあったにちがいない」と強く推量しています。過去に対する強い推量を表すには、must have Vpp (Vしたにちがいない) という形を使います。ちなみに、should have Vpp や ought to have Vpp は「Vすべきだったのに」という、過去に対する後悔を表す表現です。

□10 「あなたの車を洗いましょうか。」「いいえ、結構です。」

[10]⇒② Shall

▶ shall という助動詞を使って、Shall I V? とすると「Vしましょうか」という意味になります。これに答える場合には、「Yes, please. (はい、お願いします)」／「No, thank you. (いいえ、結構です)」という表現を使うことにも注意しておきましょう。



問2：日本文に合う英文になるように選択肢の語を並べかえ、空欄に入るものを選び。

- 11 私の父は私に最善をつくすようにとよく言ったものでした。(1語不要)

My father \_\_\_\_\_ 11 \_\_\_\_\_ 12 \_\_\_\_\_ best.

- ① say            ② my            ③ do            ④ tell  
⑤ would        ⑥ me            ⑦ to            ⑧ often

[日本大学高]

- 12 あなたはできるだけたくさん本を読むべきです。

頻

You \_\_\_\_\_ 13 \_\_\_\_\_ 14 \_\_\_\_\_ you can.

- ① as            ② as many        ③ books        ④ to  
⑤ read        ⑥ should        ⑦ try

[日白学園高]

- 13 この部屋ではそんなに騒がない方がいいよ。

難

You \_\_\_\_\_ 15 \_\_\_\_\_ 16 \_\_\_\_\_ .

- ① noisy        ② not            ③ so            ④ this room  
⑤ be            ⑥ better        ⑦ had            ⑧ in

[東洋大附属牛久高]

- 14 今日、あなたは犬を散歩に連れていく必要がない。(1語補足)

You \_\_\_\_\_ 17 \_\_\_\_\_ 18 \_\_\_\_\_ today.

- ① take        ② don't        ③ for            ④ the  
⑤ have        ⑥ a            ⑦ walk          ⑧ dog

[法政大第一高]

- 15 ボブは5時までにその仕事を終えなければならない。(1語不要)

頻

Bob \_\_\_\_\_ 19 \_\_\_\_\_ 20 \_\_\_\_\_ by five.

- ① must        ② work        ③ the            ④ will  
⑤ doing       ⑥ to            ⑦ finish        ⑧ have

[常総学院高]

- 16 あなたは夜遅く散歩をしない方がいい。

You \_\_\_\_\_ 21 \_\_\_\_\_ 22 \_\_\_\_\_ at night.

- ① not           ② a            ③ better        ④ take  
⑤ late           ⑥ walk        ⑦ had

[植草学園文化女子高]

- 11 My father would often tell me to do my best.

11 ⇒ ⑧ 12 ⇒ ③ (5-8-4-6-7-3-2) 不要=① say

▶ would often V (昔はVしたものだ)は、過去の不規則な習慣を表す表現。often を省略して would だけでも表すことができます。ちなみに、used to Vでは過去の規則的習慣や状態を表すことができます。

- 12 You should try to read as many books as you can.

13 ⇒ ⑦ 14 ⇒ ② (6-7-4-5-2-3-1)

▶ 「Vすべきだ」という義務を表すには、should という助動詞を使うこと。この should は ought to と書き換えることができます。また、as ... as ~ can は「～にできるだけ…」という意味の重要表現。これは、as ... as possible と書き換えることができます。

- 13 You had better not be so noisy in this room.

15 ⇒ ⑥ 16 ⇒ ⑤ (7-6-2-5-3-1-8-4)

▶ had better V は「Vした方がよい」という表現で、これを否定文にすると had better not V (Vしない方がよい) としなければなりません。「had better」で1つの助動詞だと考え、× had not better としないことに特に注意してください。

- 14 You don't have to take the dog for a walk today.

17 ⇒ ⑤ 18 ⇒ ① (2-5-X-1-4-8-3-6-7) 補足=to

▶ 「Vする必要がない」という表現は、don't have to V, don't need to V, need not V という形で表すことができます。これらと、「Vしてはならない」という禁止の意味を表す must not V は、区別して覚えておくこと。

- 15 Bob will have to finish doing the work by five.

19 ⇒ ⑧ 20 ⇒ ⑤ (4-8-6-7-5-3-2) 不要=① must

▶ must と have to のどちらを使うか迷う問題。両方「Vしなければならない」という意味になりますが、未来を表す助動詞の will と一緒に使えるのは、must ではなく have to の方です。だからここでは、will と have to を組み合わせて、will have to V (Vしなければならないだろう) としましょう。

- 16 You had better not take a walk late at night.

21 ⇒ ③ 22 ⇒ ④ (7-3-1-4-2-6-5)

▶ had better V は、「Vした方がよい」という意味の重要表現。これを否定にすると had better not V となります。× had not better としないように注意。「散歩をする」は take a walk。「散歩に出かける」は go (out) for a walk といいます。また、「夜遅く」は late at night といいます。



- 17 この本をどこで買ったらいいか、彼に聞いてもいいですか。

難

\_\_\_\_\_ 23 \_\_\_\_\_ 24 \_\_\_\_\_ ?  
 ① to            ② this book    ③ ask            ④ where  
 ⑤ I              ⑥ him           ⑦ buy            ⑧ may

〔専大松戸高〕

- 18 あまり遅くならないうちに帰らなければなりません。

I \_\_\_\_\_ 25 \_\_\_\_\_ 26 \_\_\_\_\_ .  
 ① gets           ② it              ③ say            ④ late  
 ⑤ good-by       ⑥ before        ⑦ too            ⑧ must

〔城北高〕

- 19 飛行機で世界中を旅行したいものだ。

I \_\_\_\_\_ 27 \_\_\_\_\_ 28 \_\_\_\_\_ by airplane.  
 ① world          ② like            ③ over           ④ would  
 ⑤ all              ⑥ travel          ⑦ the            ⑧ to

〔東海大望洋高〕

- 20 きれいな夕陽を見そこなってしまったね。もう数分早く来ればよかったのに。

You just missed a beautiful sunset. You \_\_\_\_\_ 29 \_\_\_\_\_  
30 \_\_\_\_\_ .  
 ① a              ② come           ③ earlier          ④ few  
 ⑤ minutes       ⑥ have           ⑦ should

〔開成高&lt;改&gt;〕

- 17 May I ask him where to buy this book?

23 ⇒ ③ 24 ⇒ ① (8-5-3-6-4-1-7-2)

▶ 許可を求めて、「Vしてもよろしいですか」という丁寧な表現をする場合は、**May I V?** と言います。**may** はこのように許可を表す意味と、「Vするかもしれない」という推量を表す意味の2種類があります。また、「疑問詞＋不定詞」は名詞句を作ることに注意しましょう。

- 18 I must say good-by before it gets too late.

25 ⇒ ③ 26 ⇒ ① (8-3-5-6-2-1-7-4)

▶ **must** という助動詞をうまく使いこなすこと。**must V** は「Vしなければならない」という強い義務と、「Vするにちがいない」という強い推量の2つの意味があります。ここでは義務の意味で使われています。この **must** は、**have to** にも書き換えられることに注意しておきましょう。

- 19 I would like to travel all over the world by airplane.

27 ⇒ ② 28 ⇒ ⑥ (4-2-8-6-5-3-7-1)

▶ **would like to V** は「Vしたいものだ」という意味で、**want to V** よりも丁寧な表現。このように、過去形の助動詞の **would** や **could** を使って、丁寧な表現をすることができます。また、「世界中」は **all over the world** と表します。

- 20 You just missed a beautiful sunset. You should have come a few minutes earlier.

29 ⇒ ⑥ 30 ⇒ ④ (7-6-2-1-4-5-3)

▶ **should have Vpp** は「Vすべきだったのに、Vすればよかったのに」という、過去に対する後悔を表します。「1分早く」は **a minute early** のように数字を前に置くので、「もう数分早く」は **a few minutes earlier** となります。

CHECK YOUR LEVEL	1st TRY	2nd TRY	3rd TRY	▶ 0 ~ 19 点 ⇒ <b>Work harder!</b> ▶ 20 ~ 24 点 ⇒ <b>OK!</b> ▶ 25 ~ 28 点 ⇒ <b>Way to go!</b> ▶ 29 ~ 30 点 ⇒ <b>Awesome!</b>
	30点	30点	30点	



# 不定詞・動名詞

▶ 不定詞に強くなるには、何といってもまず不定詞の3用法；**名詞**的用法，**形容詞**的用法，**副詞**的用法を文の中で正確に見抜くことが重要です。また、この不定詞の名詞的用法は、同じ名詞の働きをする**動名詞**と混同しやすいので、きちんと区別して使えるように練習していきましょう。

## 1 不定詞の形容詞的用法

問 My friend wants something .

- ① drink      ② drank      ③ drunk      ④ to drink

[目白学園高]

ここでは、空所の前にある something という名詞を「何か飲むためのもの」と修飾する語句を選ばなければなりません。このように、**後ろから名詞を修飾する**ときに使われるのが**不定詞の形容詞的用法**です。

名詞を修飾する場合に使われる不定詞が形容詞的用法。動詞などを修飾する場合は副詞的用法。そして、主語や目的語の位置に置かれて名詞の働きをするのが名詞的用法です。

解答⇒4 (訳：私の友達は何か飲むものを欲しがっている。)

## 2 形式主語

問 It is difficult  English.

- ① speak      ② spoken      ③ speaking      ④ to speak

[錦城学園高<改>]

例えば To speak English is difficult. のように、主語の位置に**不定詞の名詞的用法**を使うこともできなくはありませんが、主語が非常に長い不格好な文になってしまいます。これを避けるために、主語の部分に it という目印になる言葉を主語の

位置に置いて、不定詞を後回しにすることができます。このような目印の働きをする it のことを**形式主語**、または**仮主語**といいます。

解答⇒4 (訳：英語を話すことは難しい。)

## 3 動名詞のみをとる動詞 (メガフェプス動詞)

問 Tom enjoyed  television for three hours last night.

- ① watch      ② watched      ③ watching      ④ to watch

[東京学館浦安高<改>]

動詞には、不定詞だけを目的語にとるもの、動名詞だけを目的語にとるもの、不定詞と動名詞のどちらも目的語にとるものがあります。

その中でもとりわけ試験に頻出するのが、**動名詞だけを目的語にとる動詞**です。enjoy も、不定詞を目的語にとることができない動詞なので、必ず動名詞を選択しなければなりません。よって、ここでは③ watching が正解になります。

このような動詞は、頭文字を取って MEGAFEPS (メガフェプス) とまとめて暗記しておきましょう。

解答⇒3 (訳：彼は、昨夜3時間テレビを見て楽しんだ。)

### 動名詞のみを目的語にとる動詞

- |                            |                    |        |
|----------------------------|--------------------|--------|
| <input type="checkbox"/> M | mind               | ▶ 気にする |
| <input type="checkbox"/> E | enjoy              | ▶ 楽しむ  |
| <input type="checkbox"/> G | give up            | ▶ やめる  |
| <input type="checkbox"/> A | avoid              | ▶ 避ける  |
| <input type="checkbox"/> F | finish             | ▶ 終える  |
| <input type="checkbox"/> E | escape             | ▶ 免れる  |
| <input type="checkbox"/> P | put off [postpone] | ▶ 延期する |
| <input type="checkbox"/> S | suggest            | ▶ 提案する |



問1：次の英文の空欄に入れるのに最も適当なものを選び。

□1 “Remember [1] the letter when you go out.”

- ① mailing                      ② to mail  
③ having mailed              ④ that you mail      [日大習志野高]

□2 Do you know [2] this box?

難

- ① where to put                  ② where put  
③ where putting                ④ to put where      [日大豊山高]

□3 It's cold outside. Be careful [3] a cold.

- ① not catch                      ② not to catch  
③ not catching                  ④ of not catching      [青山学院高等部]

□4 “I'm very hungry. Is there any food?” “No, there's [4].”

- ① nothing for eat                  ② not any eating food  
③ nothing to eat                  ④ nothing eating      [中央大付属高]

□5 Will you give me [5] drink?

頻

- ① hot something to                  ② something to hot  
③ something hot to                  ④ something hot      [大阪女学院高]

□6 He is proud of [6] Japanese.

- ① to be              ② be              ③ being              ④ is

[立教高]

□1 「あなたが外出するとき忘れずに手紙を出しなさい。」

[1] ⇒ ② to mail

▶ remember は、後ろが不定詞か動名詞かで意味が異なります。動名詞には過去の、不定詞には未来的な意味があり、remember Ving は「(過去に) V したことを覚えている」、remember to V は「(未来に) V することを心に留めておく」となります。これから手紙を投函するわけだから、答えは不定詞の ② to mail。

□2 あなたはこの箱をどこに置くか知っていますか。

[2] ⇒ ① where to put

▶ where や how などの疑問詞の後ろに不定詞を置くと、大きな名詞句を作ることができます。ここでは、where to V (どこで V するか) という形の ① where to put が答えです。

□3 外は寒いですよ。風邪をひかないように気をつけて。

[3] ⇒ ② not to catch

▶ 不定詞の否定形は、not や never を直前に置いて、not to V や never to V という形にします。ちなみに、動名詞の否定も not Ving という形にします。be careful to V で「V するように注意する」、be careful not to V で「V しないように注意する」という熟語として覚えておきましょう。

□4 「とてもお腹がすいた。食べ物がありますか。」「いいえ、食べる物は何もありません。」

[4] ⇒ ③ nothing to eat

▶ 不定詞は名詞の直後に置いて、形容詞と同じように名詞を後ろから修飾することもできます。この働きを不定詞の形容詞的用法と呼びます。ここでは、to eat が nothing を修飾している ③ nothing to eat を選びましょう。

□5 何か温かい飲み物をくれませんか。

[5] ⇒ ③ something hot to

▶ something や nothing などの -thing で終わる名詞を修飾する場合、形容詞はその直後に置きます。同時に不定詞の形容詞的用法も使う場合は、形容詞のさらに後ろに置かなければならないので、答えは ③ になります。この表現は繰り返し試験に出てくるので、文ごと丸暗記しておきましょう。

□6 彼は日本人であることに誇りをもっている。

[6] ⇒ ③ being

▶ 前置詞 of の後ろには普通、名詞がきます。動詞に名詞の働きをさせるには、不定詞の名詞的用法と動名詞の2通りがありますが、前置詞の後ろに置く場合には動名詞を使わなければなりません。ここでは、動名詞の ③ being が正解となります。



□7 My brother is good [ 7 ] a car.

- ① driver                      ② at driving  
③ to drive                    ④ drive

[目白学園高]

□8 Try to read this book without [ 8 ] the dictionary.

- ① use                      ② to use                      ③ using                      ④ used

[東洋大附属牛久高<改>]

□9 I've been so busy that I haven't finished [ 9 ] the book yet.

- ① in reading                      ② reading  
③ to read                          ④ read

[東京工業大附属工業高]

□10 Tom went out after [ 10 ] .

難

- ① had lunch                      ② he was having lunch  
③ having lunch                    ④ he has lunch

[大阪女学院高]

□7 私の兄は車を運転するのが得意だ。

[ 7 ] ⇒ ② at driving

▶ be good at ~ は「～が得意である」という熟語。前置詞 at の後ろには普通、名詞がきます。動詞に名詞の働きをさせるには、不定詞の名詞的用法と動名詞の2通りがありますが、前置詞の後ろに置く場合は動名詞を使わなければなりません。

□8 辞書を使わないでこの本を読んでみなさい。

[ 8 ] ⇒ ③ using

▶ 前置詞 without の後ろには普通、名詞がきます。前置詞の後ろに名詞を置く場合は、不定詞ではなく動名詞を使わなければなりません。ここでは、動名詞の③ using が正解。without Ving は「Vすることなしに、Vせずに」という熟語として覚えておきましょう。

□9 私はとても忙しいので、まだその本を読み終えていない。

[ 9 ] ⇒ ② reading

▶ finish という動詞の後ろには、finish the homework のように普通は名詞がきます。この名詞の位置に動詞を置く場合には、不定詞ではなく必ず動名詞を使います。つまり、finish to V とはできないのです。このような動詞には他に、enjoy (楽しむ)、mind (気にする) などがあります。

□10 トムは昼食をとったあと、外出した。

[ 10 ] ⇒ ③ having lunch

▶ after や before は、前置詞としても接続詞としても使うことができます。ここでは前置詞として使われていて、前置詞の後ろにくる名詞の代わりに動名詞が置かれています。after を接続詞として考えて、②や④を入れようとしても、②は過去進行形、④は現在形ですから、時制が一致しません。



問2：日本文に合う英文になるように選択肢の語を並べかえ、空欄に入るものを選び。

- 11 君が彼のことを尋ねるなんて不思議だ。(1語不要)

\_\_\_\_\_ 11 \_\_\_\_\_ 12 \_\_\_\_\_ about him.  
 ① strange ② he ③ to ④ is  
 ⑤ it ⑥ ask ⑦ you ⑧ for

[法政大第一高]

- 12 彼は親切にも私たちに車を貸してくれました。

He \_\_\_\_\_ 13 \_\_\_\_\_ 14 \_\_\_\_\_  
 ① kind ② lend ③ car ④ was  
 ⑤ his ⑥ enough ⑦ to ⑧ us

[果鴨高]

- 13 早起きは健康によい。

\_\_\_\_\_ 15 \_\_\_\_\_ 16 \_\_\_\_\_ health.  
 ① good ② up ③ to ④ our  
 ⑤ early ⑥ for ⑦ get ⑧ is

[湘南学園高]

- 14 あなたは昼食前にはお腹が減りすぎて勉強ができなるとよく言います。

You often say \_\_\_\_\_ 17 \_\_\_\_\_ 18 \_\_\_\_\_  
 ① before ② study ③ are ④ lunch  
 ⑤ to ⑥ you ⑦ hungry ⑧ too

[上宮太子高]

- 15 彼女はその歌を聞くと悲しい気分になります。

\_\_\_\_\_ 19 \_\_\_\_\_ 20 \_\_\_\_\_  
 ① song ② her ③ the ④ listening  
 ⑤ makes ⑥ to ⑦ sad

[大妻中野高]

- 16 なんて暑いんだ！とてものどが渴いた。冷たい飲み物をいただけませんか。

How hot it is! I'm very thirsty. Will \_\_\_\_\_ 21 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_ 22 \_\_\_\_\_ ?  
 ① something ② give ③ you ④ cold  
 ⑤ me ⑥ drink ⑦ to

[専大松戸高]

- 11 It is strange for you to ask about him.

11 ⇒ ④ 12 ⇒ ⑧ (5-4-1-8-7-3-6) 不要=② he

▶ この It は形式主語で、後ろの to ask about him という名詞的用法の不定詞を指しています。また、不定詞の意味上の主語を表すには、不定詞の前に for を置きます。It is ... (for ~) to V で、「(~が) V するのは…だ」という意味の重要構文になります。

- 12 He was kind enough to lend us his car.

13 ⇒ ⑥ 14 ⇒ ② (4-1-6-7-2-8-5-3)

▶ ... enough to V は、「V するほどに…、V するのに十分に…」という意味の重要表現。これは、so ... as to V という表現と同じ意味ですから、本文は He was so kind as to lend us his car. にも書き換えることができます。

- 13 To get up early is good for our health.

15 ⇒ ⑦ 16 ⇒ ⑧ (3-7-2-5-8-1-6-4)

▶ 不定詞や動名詞は名詞の働きをするので、主語の位置に置くこともできます。この文では、To get up early が名詞的用法の不定詞で、主語の働きをしています。形式主語の it を使って、It is good for our health to get up early と書き換えることもできます。

- 14 You often say you are too hungry to study before lunch.

17 ⇒ ⑧ 18 ⇒ ② (6-3-8-7-5-2-1-4)

▶ too ... (for ~) to V は「…すぎて(~は) V できない」という意味の重要表現。ここでは、不定詞の意味上の主語である for ~ の部分は使わずに並べ換えましょう。

- 15 Listening to the song makes her sad.

19 ⇒ ① 20 ⇒ ② (4-6-3-1-5-2-7)

▶ 主語には必ず名詞、もしくは名詞の働きをするものがきます。ここでは、listening という名詞の働きをする動名詞が主語の位置に置かれています。また、make O C は「O を C にする」という意味の重要表現で、O には名詞、C には名詞や形容詞がきます。

- 16 How hot it is! I'm very thirsty. Will you give me something cold to drink?

21 ⇒ ① 22 ⇒ ⑦ (3-2-5-1-4-7-6)

▶ 「何か冷たい飲み物」というときには、something cold to drink という表現を使います。something や nothing などの -thing で終わる名詞を修飾する場合、形容詞は後ろに置かなければなりません。そして、不定詞の形容詞的用法は、さらにその後ろに置きます。この文は頻出なので、丸ごと覚えておくこと。



- 17 夕食に招待してくれてありがとう。

\_\_\_\_\_ 23 \_\_\_\_\_ 24 \_\_\_\_\_ .  
 ① inviting      ② thank      ③ me      ④ dinner  
 ⑤ you      ⑥ to      ⑦ for

[志学館高]

- 18 私の仕事は家族のために料理をすることです。

My \_\_\_\_\_ 25 \_\_\_\_\_ 26 \_\_\_\_\_ .  
 ① family      ② work      ③ my      ④ cooking  
 ⑤ is      ⑥ for

[郁文館高]

- 19 私はそのパーティーで楽しく過ごしたことを思い出す。

27 \_\_\_\_\_ 28 \_\_\_\_\_ .  
 ① the      ② time      ③ a      ④ at  
 ⑤ party      ⑥ good      ⑦ remember      ⑧ having

[城北高]

- 20 私はあなたに会えるのを楽しみにしています。

29 \_\_\_\_\_ 30 \_\_\_\_\_ .  
 ① you      ② am      ③ forward      ④ to  
 ⑤ I      ⑥ looking      ⑦ seeing

[暁星国際高]

- 17 Thank you for inviting me to dinner.

23 ⇒ ⑤ 24 ⇒ ① (2-5-7-1-3-6-4)

▶ thank you for ~ は、「~をありがとう」という意味の重要表現。前置詞 for の後ろには名詞がきます。動詞に名詞の働きをさせるには、不定詞の名詞的用法と動名詞の2通りの方法がありますが、前置詞の後ろに置く場合には動名詞を使わなければなりません。

- 18 My work is cooking for my family.

25 ⇒ ④ 26 ⇒ ③ (2-5-4-6-3-1)

▶ be動詞の後ろに、名詞の代わりに動名詞が使われています。動名詞は「Vすること」という意味で、名詞と同じような働きをすることができます。

- 19 I remember having a good time at the party.

27 ⇒ ⑧ 28 ⇒ ② (7-8-3-6-2-4-1-5)

▶ remember という動詞の後ろには、不定詞も動名詞も置くことができますが、どちらを置くかで意味が大きく異なります。不定詞は未来的、動名詞は過去の意味をもっていて、remember to Vは「(未来に) Vすることを心に留めておく」、remember Vingは「(過去に) Vしたことを覚えている」となります。

- 20 I am looking forward to seeing you.

29 ⇒ ⑥ 30 ⇒ ④ (5-2-6-3-4-7-1)

▶ look forward to ~ は、「~を楽しみにする」という意味の頻出熟語。この to は前置詞で、後ろには名詞がきます。この名詞の代わりに動名詞を置くと、look forward to Ving (Vすることを楽しみに待つ) という形になります。この前置詞の to を不定詞と勘違いして、後ろに原形動詞を置かないように注意しましょう。

CHECK YOUR LEVEL	1st TRY	2nd TRY	3rd TRY	▶ 0 ~ 19 点 ⇒ Work harder! ▶ 20 ~ 24 点 ⇒ OK! ▶ 25 ~ 28 点 ⇒ Way to go! ▶ 29 ~ 30 点 ⇒ Awesome!
	30点	30点	30点	



## ✿ 上手な辞書の使い方

電子辞書類は、今では内容が充実して本当に便利になりましたね。

辞書を引くときには英単語の意味だけではなく、派生語や反対語、例文などにも気を配るようにしましょう。特に英文法の問題に強くなるためには、単語がどのように使われるか、つまり英単語の語法に関する説明の部分をしっかりと押さえてください。

例えば、prevent という動詞を覚えるのに「妨げる」という意味だけを覚えてもそれほど役には立ちません。英文法の問題では必ずと言っていいほど、後ろの「目的語 + from + 動名詞」の形が問われるのです。このような形を、例文と一緒に確認して記憶する習慣を身につけましょう。

「辞書を引けば引くほど英語ができるようになる」とよく言いますが、ただ単に作業として「意味調べ」をやるために辞書を引いても効果はあまりありません。辞書は、意味だけをチェックするというよりは、そこにある「語法や例文を読む」という感覚で使いこなしましょう。

無用な意味調べの時間を節約するために、このシリーズでは巻末に「単語・熟語リスト」(→ p.128) を付けてあります。大いに利用して、語彙と英文法の力を同時に高めていきましょう。



## LEVEL-2

# STAGE 2

ENGLISH GRAMMAR WORKBOOK  
STEP BY STEP

第4章 分詞

第5章 比較

第6章 関係詞



## 分詞

▶ 動詞を Ving (現在分詞) や Vpp (過去分詞) に変化させると、**形容詞**の働きをして名詞を修飾します。Ving は「する、している」という**能動的**な意味を、Vpp は「される、された」という**受動的**な意味をもちます。問題を解く際には、その基準となる語句をきちんと見つけるようにしましょう。

## 1 Ving (能動の関係)

問 A bus  25 people ran into a building last night.  
① carry ② carries ③ carried ④ carrying

分詞が名詞を修飾する場合、1語のときは前から、いろいろと修飾語句が付いて2語以上になったときには後ろから名詞を修飾するのが普通。どちらの場合も Ving にするか Vpp にするかは、修飾される名詞を基準にして考えましょう。

ここでは、修飾される名詞は A bus で、バスは人々を運ぶ方だから、名詞と分詞の間に**能動の関係**が成り立ちます。よって④ carrying という現在分詞が正解。

解答⇒4 (訳: 昨夜、25人の乗客を乗せたバスがビルに突っ込んだ。)

## 2 Vpp (受動の関係)

問 This is the bicycle  to him for his birthday.  
① give ② given ③ giving ④ gave

[芝浦工大柏高]

分詞が名詞を修飾する場合、修飾される名詞を基準にして分詞の形を決めます。ここでは、自転車は与えられる方だから、自転車と分詞の間に**受動の関係**が成り立っています。よって、過去分詞の② given が正解になります。

解答⇒2 (訳: これは彼の誕生日に彼がもらった自転車だ。)

## 3 V+O+分詞

問 Can you hear a bird  in the tree?  
① to sing ② singing ③ sung ④ is sung

hear のような他動詞の後ろに目的語(名詞)と空所が続いていて、分詞を選択する場合には目的語を基準に分詞の形を決めましょう。

ここでは、a bird という目的語(名詞)を基準にして、「鳥が歌う」という**能動**の関係を見抜けば② singing が答えだとわかります。

解答⇒2 (訳: あなたはその木で鳥が鳴いているのが聞こえますか。)

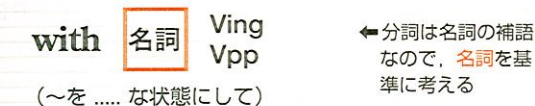
## 分詞が Ving か Vpp かを判断する基準となる語句

※以下の□を基準に考えて、「する」(能動)なら Ving、「される」(受動)なら Vpp になる

## ① 基本(分詞が名詞を修飾する場合)



## ② 分詞が補語(C)の場合



「する」という能動の関係なら Ving, 「される」という受動の関係なら Vpp とはいうものの、「する」「される」は何を基準に考えるかによって大きく違ってきます。

例えば、「私が机を壊す」という状況の場合、私を基準にすると「壊す」方ですが、机を基準にすると「壊される」方になります。日本語だけで考えると、この基準を間違ってしまうことがあるのです。

分詞の問題を解く際は、何を基準に考えて問題を解けばいいのか、その**基準となる語句**の見抜き方をしっかり覚えておきましょう。



■問1：次の英文の空欄に入れるのに最も適当なものを選び。

□1 This is one of the houses [1] stone.

- ① built of                      ② building of  
③ making from                ④ which was made from

[東海大浦安高]

□2 The man [2] on the bridge was killed in the accident.

- ① work                          ② worked  
③ were working                ④ working

[中央大付属高]

□3 The news was [3] to her.

難

- ① surprise                      ② surprised  
③ surprising                   ④ to surprise

[東洋大附属牛久高]

□4 I found her [4] in collecting stamps.

- ① interested                    ② interesting  
③ enjoyed                      ④ enjoying

[東洋大附属牛久高<改>]

□5 The [5] people threw stones at the police.

頻

- ① exciting                      ② excite  
③ excited                        ④ to excite

[日大鶴ヶ丘高]

□6 Look at the white dog [6] under the table.

- ① lay                          ② to lay                      ③ laying                      ④ lying

[貞静学園高]

□1 これは石で造られた家の1つです。

[1]⇒① built of

▶分詞が名詞を後ろから修飾するパターン。まず、「家は造られる」という受動の関係があるから、過去分詞(Vpp)を使った① built of か④ which was made from に絞り込むこと。④は、先行詞が複数形の houses なのに、which の後ろの動詞が were ではなく was になっているので不可。①が正解となります。

□2 橋の上で働いていた男性は、その事故で亡くなった。

[2]⇒④ working

▶空所に入る分詞は、主語の the man を後ろから修飾する形容詞の働きをしています。ここでは、「男は働いている」という能動の関係があるので、④ working を選ぶこと。③だと述語動詞が2つになってしまうので不可です。

□3 その知らせは彼女を驚かせた。

[3]⇒③ surprising

▶surprise は、「驚かせる」という意味の重要な他動詞。間違って「驚く」と覚えられないように注意。ここでは、ニュースは人間を「驚かせる」方なので、能動の意味を持つ分詞の③ surprising (驚かせるような)を選ぶこと。この文は、She was surprised at the news. と書き換えることができます。

□4 私は彼女が切手を集めることに興味があるとわかった。

[4]⇒① interested

▶find O Cは、「OがCだとわかる」という意味。Cの部分にくる分詞がVing(能動)か、Vpp(受動)かを決定するには、Oの部分にくる名詞を基準にすること。ここでは彼女は切手を集めることに「興味を持たされている」わけだから、interest(興味を持たせる)の過去分詞形① interested が正解。

□5 興奮した人々が警察に向かって石を投げた。

[5]⇒③ excited

▶空所に入る分詞は、people という名詞を修飾しています。excite という動詞は、もともと「興奮させる」という意味だから、人々は「興奮させられる」という受動の関係をとりえて過去分詞の③ excited を選ぶこと。

□6 テーブルの下で横になっている白い犬を見なさい。

[6]⇒④ lying

▶後ろに under the table という「前置詞＋名詞」の修飾部分が続いて、目的語がないことから、空所には自動詞が入るとわかります。空所に入る自動詞は、後ろから dog を修飾する分詞。「横たわる」という自動詞は lie で、lie-lay-lain-lying と活用するので、④ lying が正解になります。



Questions      Answers

- 7** I saw a sign about a 7 cat yesterday.

① lose

② lost

③ losing

④ loss

〔専修大松戸高〕

- 8** He had his leg  in the football game.

① break

② broke

③ broken

④ breaking

〔東京学館浦安高〕

- ☐ 9 The language  in Australia is English.

頻

① speak

② speaking

③ to speak

④ spoken

〔関東第一高〕

- ☐ 10 The mountain  over there is Mt. Aso.

① see

② seeing

③ seen

④ to see

〔書雲高〕

Questions      Answers

- 7 私は昨日迷いネコについての看板を見た。

$\boxed{7} \Rightarrow \textcircled{2} \text{ lost}$

**ポイント** ▶ lose という動詞は「失う」という意味。この動詞が分詞になって、cat という名詞を修飾しています。ネコは失う方ではなく、「失われて迷子になる」方だから、ここでは過去分詞の② lost が正解です。

- 8 彼はそのフットボールの試合で足の骨を折った。

$\boxed{8} \Rightarrow \textcircled{3} \text{ broken}$

▶ have O Cは、「OをCにする」という意味の表現。このCの部分に入る分詞を選ぶ場合には、Oの部分にくる名詞を基準にして、受動か能動かで判断すること。ここでは、足は「骨を折られる」方だから、過去分詞の③ brokenが答えになります。

- 9 オーストラリアで話されている言語は英語だ。

$\boxed{9} \Rightarrow \textcircled{4}$  spoken

▶ language という名詞を後ろから修飾する、形容詞の働きをする分詞が空所に入ります。「言語は話される」という受動の関係から、過去分詞の ④ spoken を選ぶこと。

- 10 向こうに見える山は阿蘇山です。

$\boxed{10} \Rightarrow \textcircled{3}$  seen

▶ mountain という名詞を後ろから修飾する、形容詞の働きをする分詞が空所に入ります。「山は見られる」という受動の関係から、過去分詞の③ seen を選びましょう。

問2：日本語に合う英文になるように選択肢の語を並べかえ、空欄に入るものを選び。

- 11 あそこでピアノをひいている女の子はルーシーです。

\_\_\_\_\_ 11 \_\_\_\_\_ 12 \_\_\_\_\_  
 ① there            ② is            ③ playing          ④ the piano  
 ⑤ the girl          ⑥ Lucy

[東海大浦安高<改>]

- 12 ソファーに横たわっている少年は私より年上だ。

\_\_\_\_\_ 13 \_\_\_\_\_ 14 \_\_\_\_\_  
 ① the sofa          ② the boy          ③ I            ④ lying  
 ⑤ than            ⑥ on            ⑦ older          ⑧ is

[青雲高]

- 13 投げ捨てられたカンやビンで私たちの町が汚れてしまいます。

◆ Cans and bottles \_\_\_\_\_ 15 \_\_\_\_\_ 16 \_\_\_\_\_  
 ① away            ② by            ③ dirty          ④ city  
 ⑤ make            ⑥ our            ⑦ people          ⑧ thrown

[早稲田実業高]

- 14 英語は多くの国で話されている言語です。(1語不要)

English is \_\_\_\_\_ 17 \_\_\_\_\_ 18 \_\_\_\_\_  
 ① countries          ② language          ③ a            ④ many  
 ⑤ spoken            ⑥ which            ⑦ in

[成城学園高]

- 15 門のそばに立っている背の高い少年は私のいとこです。(1語不要)

\_\_\_\_\_ 19 \_\_\_\_\_ 20 \_\_\_\_\_ my cousin.  
 ① is            ② standing          ③ boy            ④ the gate  
 ⑤ who            ⑥ by            ⑦ the            ⑧ tall

[常総学院高]

- 16 私は昨日、彼から英語で書かれた手紙を受け取りました。

I \_\_\_\_\_ 21 \_\_\_\_\_ 22 \_\_\_\_\_ yesterday.  
 ① got            ② in            ③ from            ④ a  
 ⑤ English          ⑥ him            ⑦ written          ⑧ letter

[志学館高]

- 11 The girl **playing** the piano there is Lucy.

11 ⇒ ③ 12 ⇒ ② (5-3-4-1-2-6)

▶ 主語の the girl を、分詞の playing the piano there という部分が修飾しています。「女の子はピアノをひく」という能動の関係があるから、現在分詞が使われています。このように、分詞に修飾語が付いて2語以上になる場合は、分詞は後ろから名詞を修飾することに注意しましょう。

- 12 The boy **lying** on the sofa is older than I.

13 ⇒ ④ 14 ⇒ ⑧ (2-4-6-1-8-7-5-3)

▶ lie (横たわる) という動詞の活用は、lie-lay-lain-**lying**。ここでは現在分詞形の lying が the boy という名詞を修飾しています。

- 13 Cans and bottles **thrown away** by people **make** our city dirty.

15 ⇒ ① 16 ⇒ ⑤ (8-1-2-7-5-6-4-3)

▶ 主語の cans and bottles を、過去分詞の thrown が修飾しています。throw の活用は、throw-threw-**thrown**。throw away は「投げ捨てる」という意味の熟語です。

- 14 English is a language **spoken** in many countries.

17 ⇒ ⑤ 18 ⇒ ④ (3-2-5-7-4-1) 不要=⑥ which

▶ language という名詞を、過去分詞の spoken が後ろから修飾しています。このように、「言葉は話される」という受動の関係がある場合には、過去分詞を使うこと。speak の活用は、speak-spoke-**spoken**。spoken の前に which を補うことができますが、which spoken とはいえません。

- 15 The **tall** boy **standing** by the gate is my cousin.

19 ⇒ ⑧ 20 ⇒ ② (7-8-3-2-6-4-1) 不要=⑤ who

▶ 主語の the tall boy を、現在分詞の standing が後ろから修飾する形にします。ここでは、「少年が立っている」という能動の関係があるので、現在分詞が使われています。

- 16 I got a letter **written** in English from him yesterday.

21 ⇒ ⑦ 22 ⇒ ③ (1-4-8-7-2-5-3-6)

▶ letter という名詞を、過去分詞の written が後ろから修飾しています。write の活用は、write-wrote-**written**。



- 17 私は彼女がその店に入って行くところを見ました。



\_\_\_\_\_ 23 \_\_\_\_\_ 24 \_\_\_\_\_  
 ① entering ② her ③ I  
 ⑤ the shop

④ saw

[青雲高]

- 18 私は英語に大変興味があります。

\_\_\_\_\_ 25 \_\_\_\_\_ 26 \_\_\_\_\_  
 ① I ② in ③ am  
 ⑤ interested ⑥ very

④ English

[駒澤大高]

- 19 テレビの前に座っている男の子は私の弟です。

The \_\_\_\_\_ 27 \_\_\_\_\_ 28 \_\_\_\_\_ my brother.  
 ① of ② boy ③ the ④ in  
 ⑤ television ⑥ sitting ⑦ is ⑧ front

[植草学園文化女子高]

- 20 その頂上から見える朝日は美しい。



The \_\_\_\_\_ 29 \_\_\_\_\_ 30 \_\_\_\_\_  
 ① is ② rising ③ beautiful ④ seen  
 ⑤ sun ⑥ the top ⑦ from

[日大鶴ヶ丘高]

- 17 I saw her entering the shop.

23 ⇒ ④ 24 ⇒ ① (3-4-2-1-5)

▶ see ~ Ving は「～がVしているのを見る」。また、Ving の代わりに過去分詞が使われて see ~ Vpp となると、「～がVされるのを見る」という意味になります。このように、Ving の現在分詞は能動的（する、している）な意味があり、Vpp の過去分詞は受動的（される、された）な意味があることに注意。

- 18 I am very interested in English.

25 ⇒ ③ 26 ⇒ ② (1-3-6-5-2-4)

▶ interest は、もともと「興味を持たせる」という意味の他動詞。人間を主語にして、「人間が興味を持っている」という場合には、「人間が興味を持たされる」というように受動的に考えて、be interested in ~ という形を使いましょう。

- 19 The boy sitting in front of the television is my brother.

27 ⇒ ⑥ 28 ⇒ ⑤ (2-6-4-8-1-3-5-7)

▶ 主語の the boy を、sitting という分詞が後ろから修飾しています。ここでは、「少年は座っている」という能動の関係があるので、現在分詞が使われています。

- 20 The rising sun seen from the top is beautiful.

29 ⇒ ⑤ 30 ⇒ ⑦ (2-5-4-7-6-1-3)

▶ sun という名詞を、前から修飾する rising という分詞と、後ろから修飾する seen という分詞が同時に使われています。分詞は、基本的には1語のときには前から、2語以上のときには後ろから名詞を修飾するという点に注意しておきましょう。

CHECK YOUR LEVEL	1st TRY	2nd TRY	3rd TRY	
	30点	30点	30点	▶ 0 ~ 19 点 ⇒ Work harder!
				▶ 20 ~ 24 点 ⇒ OK!
				▶ 25 ~ 28 点 ⇒ Way to go!
				▶ 29 ~ 30 点 ⇒ Awesome!

## 比較

▶ 比較の基本表現を学んだら、今度は試験によく出る、比較にまつわるさまざまな慣用表現や熟語を学びとっていきましょう。特に、比較では最上級や as ... as や比較級の間での書き換えを求められる場合も多いので、これらの表現を文ごと覚え、英語の応用力を磨いていくことが大切です。

## 1 比較級を使った基本表現

問 Lake Biwa is larger than any  in Japan.

- ① lakes                      ② other lakes  
③ other lake                ④ another lake

〔目白学園高〕

「比較級 than any other ~」は、「どんな~よりも…」という最上級と同じような意味をもつ表現。この文を最上級に書き換えると、Lake Biwa is the largest of all the lakes in Japan. となります。このような書き換えがしっかりできるようになることが、比較をマスターする上で非常に大切なポイントとなります。

解答⇒3 (訳：琵琶湖は日本の他のどんな湖よりも大きい。)

## 2 比較の強調

問 The new building is  than the old one.

- ① more high                ② more higher  
③ lot higher                ④ much higher

〔明治大付属明治高〕

比較級を強調する場合には、**much** や **far** という副詞を使います。よって、答えは ④ much higher を選びましょう。② のように、more と -er を同時に使うことはできません。

また、最上級を強調する場合には、**much the** 最上級、**by far the** 最上級 (ずば抜けて…) という形で、**much** や **by far** を使うことも覚えておきましょう。

解答⇒4 (訳：その新しい建物は古いものよりずっと高い。)

## 3 最上級

問 Yoshiko can speak English  of all the girls.

- ① well                      ② good                      ③ better                      ④ best

〔千葉明德高〕

形容詞の good や副詞の well を比較級や最上級にすると、good[well]-better-best となります。ここでは、「上手に」という意味を考えて well の最上級 best を使うこと。「of all 複数名詞」というのは、最上級の後ろでよく使われる表現で、「すべての~の中で」という意味になります。

解答⇒4 (訳：ヨシコはすべての女子の中で一番上手に英語を話すことができる。)

## 不規則変化をする形容詞・副詞

- ☐ good - better - best  
☐ well  
☐ little - less - least  
☐ bad - worse - worst  
☐ much - more - most  
☐ many



問1：次の英文の空欄に入れるのに最も適当なものを選び。

□1 He lives in a house twice as large 1 this.

頻

- ① so                      ② than                      ③ as                      ④ in

〔日大豊山高〕

□2 She had to run 2 as she could.

- ① as fast                      ② so fast  
③ too fast                      ④ much faster

〔日大豊山高〕

□3 My sweater is more expensive than yours, but 3 my mother's.

- ① cheap less than                      ② less cheaper than  
③ less expensive than                      ④ expensive less than

〔大妻中野高〕

□4 Tom is the 4 person I've ever met.

難

- ① happier                      ② happiest  
③ more happy                      ④ most happiest

〔中央大付属高〕

□5 This is 5 useful book of all.

- ① the more                      ② much  
③ better                      ④ the most

〔千葉明德高〕

□6 We worked 6 hours today than yesterday.

- ① few                      ② many                      ③ less                      ④ fewer

〔日大鶴ヶ丘高〕

□1 彼は、この家の2倍の大きさの家に住んでいる。

1 ⇒ ③ as

▶ 英語で「-倍」を表現する場合には、「-times as ... as ~」という構文を使います。これは、「～の-倍…だ」という意味になります。2倍という場合には、twice を使うこと。もちろん、空所に入るのは③ as です。

□2 彼女は、できる限り速く走らなければならなかった。

2 ⇒ ① as fast

▶ as ... as ~ can は、「～にできるだけ…」という意味の重要表現。これは、as ... as possible にも書き換えることができます。ここでは、時制の一致で can の過去形の could が使われていることに注意しましょう。

□3 私のセーターはあなたのよりも値段が高いが、私の母のよりは高くない。

3 ⇒ ③ less expensive than

▶ less は more の反対で、形容詞や副詞の前に置くと「～より…でない」という意味の比較級を作ることができます。ここでは、but の後ろは文脈上「より高価でない」と解釈できるから、③ less expensive than が正解です。

□4 トムは私が出会った中で最も幸せな人だ。

4 ⇒ ② happiest

▶ happy のような2音節以下の短めの形容詞は、基本的に -est という語尾を付けて最上級にします。「the 最上級 名詞 (that) S have ever Vpp」は、「S が今までにVした中で一番…な～」という意味の重要表現。

□5 これはすべての中で最も役に立つ本だ。

5 ⇒ ④ the most

▶ of all (すべての中で) という表現から、ここでは最上級の意味になるということ推測すること。useful のような -ful で終わる形容詞を比較級や最上級にする場合には、more や most を前に置きます。

□6 今日、私たちは昨日より少ない時間働いた。

6 ⇒ ④ fewer

▶ 後ろに than があるので、比較級が使われます。不可算名詞の前に置いて「ほとんどない、ほんのわずかの」という意味になる little は、little-less-least と活用。可算名詞の前に置いて「ほんのわずかの、少数の」という意味になる few は、few-fewer-fewest と活用します。ここでは、直後の名詞 hours は可算名詞なので、few の比較級の④ fewer が正解。



□7 I don't have [7] as you.

① so many books

② books so many

③ so less books

④ more books [東京工業大附属工業高]

□8 The climate of Tokyo is milder than [8] of New York.

① it

② one

③ the one

④ that

[芝浦工大柏高]

□9 Mary is [9] than Jane is.

① more happy

② so happy

③ much happier

④ very happier

[専修大松戸高]

□10 He has [10] you do.



① books as many as ten times

② ten times as many books as

③ books ten times as many as

④ as ten times many books as

[日大豊山高]

□7 私はあなたほど多くの本を持っていない。

[7] ⇒ ① so many books

▶ not so[as] ... as ~ は、「〜ほど…ではない」という意味の重要表現。この構文では、so ..... as you は修飾部分なので、取り去ってももとの文が残るようになければなりません。①を入れて修飾部分を取り去ると、I don't have many books. となって正しい。②では、I don't have books many. となるので誤りです。

□8 東京の気候はニューヨークに比べて温暖だ。

[8] ⇒ ④ that

▶ 比較の表現では、比べるものの種類を統一しなければなりません。「東京の気候」と比べるため「ニューヨークの気候」とします。そのためには the climate が入りますが、「the 名詞」が反復してくどい場合、代名詞の that を使って反復を避けることができます。「the 複数名詞」の反復を避ける場合は those を使います。

□9 メアリーはジェーンよりずっと幸せだ。

[9] ⇒ ③ much happier

▶ 比較級を強調する場合には、much, far, even, still などの副詞を使います。ちなみに、the 最上級を強調する場合には、by far や much を使います。

□10 彼はあなたよりも10倍多く本を持っている。

[10] ⇒ ② ten times as many books as

▶ 「-倍」を英語で表現する場合には、- times as ... as ~ (〜の-倍…だ) という表現を使います。ここで注意したいのは語順。「ten times as ..... as ~」の部分は、あくまでも修飾部分にすぎないので、この部分を取り去ってももとの文が残らなければなりません。②を入れて修飾部分を取り去ると、He has many books. となり正しい。③では、He has books many. となるので誤り。①・④は ten times の位置が誤っています。したがって正解は②です。



問2：日本文に合う英文になるように選択肢の語を並べかえ、空欄に入るものを選び。

- 11 この本はあの本ほどおもしろくない。(1語不要)

This book \_\_\_\_\_ 11 \_\_\_\_\_ 12 \_\_\_\_\_ .  
 ① that            ② not            ③ as            ④ so  
 ⑤ one            ⑥ more            ⑦ is            ⑧ interesting

[常総学院高]

- 12 若いうちにできるだけ多くの本を読みなさい。

\_\_\_\_\_ 13 \_\_\_\_\_ 14 \_\_\_\_\_ when you are young.  
 ① you            ② read            ③ as            ④ books  
 ⑤ can            ⑥ many            ⑦ as

[上宮太子高]

- 13 冬は夏より陽が早く沈みます。

15 \_\_\_\_\_ 16 \_\_\_\_\_ in summer.  
 ① earlier          ② in            ③ sets          ④ than  
 ⑤ the            ⑥ sun          ⑦ winter

[同志社高]

- 14 母は家族の中で一番早く起きる。(1語補足)

17 \_\_\_\_\_ 18 \_\_\_\_\_ .  
 ① my            ② my            ③ mother        ④ family  
 ⑤ up            ⑥ in            ⑦ gets          ⑧ the

[城北高&lt;改&gt;]

- 15 これは、今まで見た中で一番美しい景色です。

This is \_\_\_\_\_ 19 \_\_\_\_\_ 20 \_\_\_\_\_ .  
 ① view          ② seen          ③ beautiful      ④ I  
 ⑤ that          ⑥ have          ⑦ most          ⑧ the

[関東第一高]

- 16 彼は他のどの少年よりも背が高い。

21 \_\_\_\_\_ 22 \_\_\_\_\_ .  
 ① boy            ② than          ③ he            ④ taller  
 ⑤ other          ⑥ is            ⑦ any

[成蹊高]

- 11 This book is not so interesting as that one.

11 ⇒ ④ 12 ⇒ ③ (7-2-4-8-3-1-5) 不要=⑥ more

▶ not so[as] ... as ~ は、「～ほど…ではない」という比較の意味を表すことができます。この文は「～より…でない」という意味の less ... を使って、This book is less interesting than that one. と書き換えることができます。

- 12 Read as many books as you can when you are young.

13 ⇒ ⑥ 14 ⇒ ① (2-3(7)-6-4-7(3)-1-5)

▶ as ... as ~ can (～にできるだけ…) は重要表現。ここで注意したいのは語順。as ..... as you can の部分は修飾部分だから、取り去っても正しい文が残らなければなりません。もし Read books as many you can としてしまうと、修飾部分を取り去ったときに Read books many という誤った文が残るので不可です。

- 13 The sun sets earlier in winter than in summer.

15 ⇒ ① 16 ⇒ ⑦ (5-6-3-1-2-7-4)

▶ early のような「子音＋y」で終わる副詞は、y を i に変えてから -er, -est を付けて比較級や最上級を作ります。ここでは、冬と夏を比較しているので、than の後ろには in winter の比較の相手である in summer が置かれています。

- 14 My mother gets up the earliest in my family.

17 ⇒ ⑧ 18 ⇒ ⑥ (1(2)-3-7-5-8-X-6-2(1)-4) 補足= earliest

▶ 副詞 early (早く) の比較変化は、early-earlier-earliest。ここでは、「一番早く」という日本語に合わせて、最上級の earliest を使いましょう。最上級の後ろに複数名詞を置く場合には of を使い、単数名詞がくる場合には in を使うことにも注意すること。

- 15 This is the most beautiful view that I have seen.

19 ⇒ ⑦ 20 ⇒ ⑤ (8-7-3-1-5-4-6-2)

▶ the 最上級 名詞 (that) S have (ever) Vpp は、「S が今までに V した中で一番…な～」という意味の重要構文。この that は関係代名詞の目的格なので、省略することもできます。

- 16 He is taller than any other boy.

21 ⇒ ② 22 ⇒ ⑤ (3-6-4-2-7-5-1)

▶ 比較級 than any other ~ (他のどんな～よりも…) は、最上級と同じような意味を表します。最上級を使って書き換えると、He is the tallest of all the boys. となります。



- 17 ジェーンほど速く泳げる生徒はこのクラスにはいません。

\_\_\_\_\_ 23 \_\_\_\_\_ 24 Jane.  
 ① can                      ② as                      ③ swim                      ④ as fast  
 ⑤ in                        ⑥ this class              ⑦ no                        ⑧ student

〔東海大浦安高〕

- 18 日に日に寒くなってきています。(1語不要)

\_\_\_\_\_ 25 \_\_\_\_\_ 26 day by day.  
 ① and                      ② getting                      ③ colder                      ④ got  
 ⑤ is                        ⑥ colder                      ⑦ it

〔文教大付属高〕

- 19 彼はギターを弾くのがクラスで一番上手です。

He \_\_\_\_\_ 27 \_\_\_\_\_ 28 in his class.  
 ① than                      ② the guitar                      ③ boy                      ④ any  
 ⑤ better                      ⑥ other                      ⑦ plays

〔駒込高〕

- 20 列車だと彼女の旅行はたいていもっと時間がかかるが、道が混んでいると車の方が列車よりはるかに遅い。

By train, her trip usually takes more time, but when traffic is heavy, \_\_\_\_\_ 29 \_\_\_\_\_ 30 .  
 ① slower                      ② the car                      ③ the train                      ④ than  
 ⑤ is                        ⑥ much

〔専修大松戸高〕

- 17 No student in this class can swim as fast as Jane.

23 ⇒ ⑧ 24 ⇒ ④ (7-8-5-6-1-3-4-2)

▶ 否定語と「as[so] ... as ~」を組み合わせると、最上級と同じような意味を表すことができます。この文は、Jane can swim the fastest of all students in this class. と書き換えることもできます。in this class が後ろから student を修飾する形にすることにも注意しましょう。

- 18 It is getting colder and colder day by day.

25 ⇒ ② 26 ⇒ ① (7-5-2-3(6)-1-6(3)) 不要=④ got

▶ 比較級 and 比較級は「ますます…」という意味を表します。長い形容詞を使う場合には、「more and more 形容詞」という形になります。ここでは「寒くなりつつある」という意味なので、現在進行形を使います。get C は become C と同じ「Cになる」という意味です。

- 19 He plays the guitar better than any other boy in his class.

27 ⇒ ⑤ 28 ⇒ ④ (7-2-5-1-4-6-3)

▶ 比較級 than any other ~ (他のどんな～よりも…) は、最上級と同じような意味を表します。最上級を使って書き換えると、He plays the guitar best of all the boys in his class. となります。

- 20 By train, her trip usually takes more time, but when traffic is heavy, the car is much slower than the train.

29 ⇒ ⑥ 30 ⇒ ④ (2-5-6-1-4-3)

▶ 「ずっと、はるかに、さらに」という意味で比較級を強調する場合には、much, far, even, still という副詞を使います。また、「ずば抜けて」という意味で「the 最上級」を強調したい場合には、by far や much を使うことにも注意しましょう。

CHECK YOUR LEVEL	1st TRY	2nd TRY	3rd TRY	▶ 0 ~ 19 点 ⇒ Work harder! ▶ 20 ~ 24 点 ⇒ OK! ▶ 25 ~ 28 点 ⇒ Way to go! ▶ 29 ~ 30 点 ⇒ Awesome!
	30点	30点	30点	



# 関係詞

▶ 関係詞は後ろにさまざまな形をとまって、前にくる名詞、つまり先行詞を修飾することができます。先行詞が何なのか、そして後ろにきている形がどのような形なのかに注意して、使う関係詞を決めていく必要があります。問題を解きながら、それぞれの関係詞の使い方をきちんと整理しておきましょう。

## 1 関係代名詞

問 I have a friend  father is a doctor.

- ① who      ② whose      ③ whom      ④ that

〔千葉明德高〕

空所の後ろに先行詞 a friend (友達) の所有物にあたる father が置かれています。関係代名詞の後ろに先行詞の所有物が置かれ、それを説明するような場合に使われるのが所有格の whose です。空所に日本語の助詞の「の」を入れて、先行詞と後ろの名詞をつなぐことができる場合は whose が入ると考えましょう。

解答⇒2 (訳：私は父親が医者の友人がいる。)

### 関係詞の基本

#### ▼ 関係代名詞

先行詞	
〈主 格〉 人	who
物	which
人・物	that
〈所有格〉 人・物	whose
所有物	
〈目的格〉 人	whom
物	which
人・物	that

→ 目的格は省略可能

#### ▼ 関係副詞

先行詞	
時	when
場所	where
the reason	why
the way	how

※「the reason」と「why」はどちらかを省略できる  
※「the way」と「how」は、どちらかを必ず省略する

← 目的語(名詞)が抜けている

## 2 関係副詞

問 I don't know the place .

- ① where he is studying      ② where is he study  
③ what dose he study      ④ which he is studying

場所を表す言葉を先行詞として、後ろに完全な文を置いて修飾することができる関係詞は、関係副詞の where です。この関係副詞と呼ばれる関係詞の後ろには、必ず完全な文が置かれることに注意しましょう。

また、関係代名詞の目的格の which や whom の後ろには、必ず目的語(名詞)が抜けた不完全な文がくるということにも注意しておきましょう。

関係副詞は、先行詞が場所の場合には where、時の場合には when を使います。また、先行詞が the reason (理由) の場合には why を使うということもしっかりと覚えておいてください。

解答⇒1 (訳：彼が勉強している場所は私にはわからない。)

## 3 関係代名詞の what と that の違い

問 I don't believe  he said.

- ① how      ② that      ③ what      ④ which

ここでは、空所の前に先行詞が存在しません。このような場合に使われるのが関係代名詞の what で、中に「こと、もの」という意味の先行詞を含んでいます。だから、主語や目的語として名詞の代わりをするかたまりを作ることができます。

関係代名詞の what は、主格としても目的格としても使うことができ、後ろには動詞や不完全な文が置かれたりします。この what を理解して頭に入れるために、「what = the thing(s) which」と覚えておきましょう。

解答⇒3 (訳：私は彼の言ったことを信じない。)



問1：次の英文の空欄に入れるのに最も適当なものを選び。

□1 She married the man [1] job was selling cars.

- ① her                                      ② his  
③ whose                                    ④ which

[中央大付属高]

□2 Look at the woman and the dog [2] are running over there.

- ① who                                      ② which  
③ that                                      ④ whom

[貞静学園高]

□3 This is the house [3] he built.

- ① who                                      ② which  
③ when                                    ④ where

[千葉明德高]

□4 [4] he said was true.

頻

- ① What                                    ② When  
③ Where                                   ④ Which

[千葉明德高]

□5 Do you have a person [5] you respect very much?

- ① whose                                   ② which  
③ whom                                    ④ what

□6 I read all the books [6] I borrowed from the library.

難

- ① that                                      ② when  
③ what                                      ④ whose

[貞静学園高<改>]

□1 彼女は車を売る仕事をしている男性と結婚した。

[1] ⇒ ③ whose

▶ 空所の前には、人を表す man という名詞、後ろにはその所有物といえる job という名詞がきています。このように、空所の前後に「男の仕事」のような所有関係がある場合には、所有格の関係代名詞 ③ whose が入ります。

□2 あそこで走っている女性と犬を見なさい。

[2] ⇒ ③ that

▶ この文では、先行詞は the woman and the dog だから、全体として人とも物ともいえません。また、後ろには動詞がきているから、主格の関係代名詞を入れるとわかります。このような場合には、③ that を入れましょう。

□3 これは彼が建てた家だ。

[3] ⇒ ② which

▶ 先行詞の the house は物で、空所の後ろには目的語のない he built という不完全な文がきています。このような場合には、目的格の関係代名詞 which を入れること。ちなみに、関係代名詞の目的格は省略できるという点にも注意しましょう。

□4 彼が言ったことは本当だった。

[4] ⇒ ① What

▶ 先行詞がなく、空所の後ろには他動詞 said の後ろに目的語の抜けた不完全な文がきています。ここには関係代名詞の ① What が入ります。関係代名詞の what ..... は、the thing(s) which ..... (.....なこと、.....なもの) とも書き換えることができます。名詞の働きをしているから、主語の位置に置くことができます。

□5 あなたはとても尊敬している人がいますか。

[5] ⇒ ③ whom

▶ 先行詞の a person は人を表し、空所の後ろには respect という他動詞の後ろに目的語が抜けた不完全な文がきています。このような場合には、関係代名詞の目的格 ③ whom を入れます。関係代名詞の目的格は、実際には省略されることが多いということも注意しておきましょう。

□6 私はその図書館から借りたすべての本を読んだ。

[6] ⇒ ① that

▶ 空所の後ろには、他動詞 borrow の後ろに目的語が抜けた不完全な文がきているから、ここには関係代名詞の目的格が入ることがわかります。また、先行詞 the books の前には、all という強い修飾語が付いています。このような all や every, only などの強い修飾語が先行詞に付いている場合には、which よりも that を使うことが多いということに注意。ここでは ① that が正解です。



- ☐ 7 This is the village  our teacher was born.

頻

- (1) which                      (2) that  
(3) in that                  (4) where

- 8** This is the first letter 

8
---

 I got from Canada.

難

- ① that                      ② whom  
③ when                    ④ what          [流通経済大付属柏高<改>]

- ☐ 9 When I had a chance to meet George, I found he was quite different  
 難 from  he was in high school.

難

- ① as                      ② that                      ③ which                      ④ what
- [英検準2級<改>]

- 10 This is a photo of the house 10 before we moved to Osaka.

- ① where we lived in                      ② we lived  
③ with which we lived                  ④ we lived in

- 7 ここが私たちの先生の生まれた村です。

$\boxed{7} \Rightarrow \textcircled{4}$  where

▶ 先行詞の the village は、「村」という意味で場所を表す名詞です。そして空所の後ろには our teacher was born という完全な文がきているから、ここでは関係代名詞を使うことはできません。このような場合は、関係副詞の ④ where を選ぶこと。

- 8 これは私がカナダから受け取った初めての手紙です。

$\boxed{8} \Rightarrow \textcircled{1}$  that

▶ 先行詞は物を表す the first letter で、後ろには目的語が抜けた不完全な文が続いています。こういう場合には関係代名詞の**目的格**を使うこと。先行詞に first や all, every などの強い修飾語が付いている場合には、普通 that を使います。

- 9 私がジョージと会う機会があったとき、彼が高校生のときの姿と全く異なっていたことに気づいた。

$\boxed{9} \Rightarrow \textcircled{4}$  what

▶関係代名詞 **what** ..... は、「……なこと、……なもの」という先行詞を含む名詞の働きをします。ここでは **what ~ was** (昔の～) という慣用表現で使われています。ちなみに、**what ~ is** は「現在の～」という意味です。

- 10 これは私たちが大阪に引っ越す前に住んでいた家の写真だ。

$\boxed{10} \Rightarrow \textcircled{4}$  we lived in

▶ 関係詞の後ろに他動詞や前置詞で終わる**不完全な文**がくる場合には、**関係代名詞**の目的格 **which** や **whom** が使われます。これらは省略されることもあるので注意すること。一方、関係詞の後ろに**完全な文**がくる場合は、**関係副詞**の **where** や、関係代名詞の目的格の前に前置詞を置いた **in which** などが使われます。

①は関係副詞 **where** の後ろに目的語のない**不完全な文**がきているので不可。②は関係代名詞の目的格 **which** が省略されていると考えても、後ろに完全な文がきているので不可。③は前置詞が場所を表す **in** であるべきなので不可。④は関係代名詞の目的格 **which** が省略されていると考えて、後ろに不完全な文が続くので正解。

問2：日本語に合う英文になるように選択肢の語を並べかえ、空欄に入るものを選び。

- 11 彼が書いたその本は何年もあとになって出版された。



The \_\_\_\_\_ 11 \_\_\_\_\_ 12 \_\_\_\_\_ later.

- ① which      ② he      ③ years      ④ wrote  
⑤ was      ⑥ book      ⑦ published      ⑧ many

[東海大浦安高]

- 12 夕食で食べた魚はおいしかった。

\_\_\_\_\_ 13 \_\_\_\_\_ 14 \_\_\_\_\_  
① the      ② delicious      ③ we      ④ for  
⑤ was      ⑥ had      ⑦ dinner      ⑧ fish

[専修大松戸高]

- 13 向こう側に見える少年がベンです。



\_\_\_\_\_ 15 \_\_\_\_\_ 16 \_\_\_\_\_ Ben.

- ① there      ② see      ③ over      ④ is  
⑤ you      ⑥ whom      ⑦ boy      ⑧ the

[東海高]

- 14 こういうわけで、単語は文の中で覚えた方がいいのです。

This is \_\_\_\_\_ 17 \_\_\_\_\_ 18 \_\_\_\_\_ in a sentence.

- ① is      ② why      ③ learn      ④ it  
⑤ to      ⑥ words      ⑦ better

[立教高]

- 15 彼は持っていたお金をみんな使ってしまった。(1語不要)



He \_\_\_\_\_ 19 \_\_\_\_\_ 20 \_\_\_\_\_

- ① all      ② every      ③ had      ④ he  
⑤ money      ⑥ spent      ⑦ that      ⑧ the

[成城高]

- 16 線路の向こうに屋根が見えるのが、私たちの教会です。



The building \_\_\_\_\_ 21 \_\_\_\_\_ 22 \_\_\_\_\_

- our church.  
① beyond      ② roof      ③ is      ④ see  
⑤ the railroad      ⑥ can      ⑦ you      ⑧ whose

[駿台甲府高]

- 11 The book which he wrote was published many years later.

11 ⇒ ① 12 ⇒ ⑤ (6-1-2-4-5-7-8-3)

▶ 関係代名詞の目的格 which, whom の後ろには、目的語が抜けた不完全な文がきます。ここでは、他動詞 wrote に目的語がない不完全な文がきています。抜けた目的語の部分に先行詞を置くと、「he wrote the book」という文が完成します。関係代名詞の目的格の前後には、必ずこのような関係が成り立ちます。

- 12 The fish we had for dinner was delicious.

13 ⇒ ③ 14 ⇒ ⑤ (1-8-3-6-4-7-5-2)

▶ ここでは、関係代名詞の目的格 which が省略されています。そして、その後ろには had という他動詞の後ろに目的語が抜けた不完全な文がくる形になります。抜けている部分に先行詞を持てると「we had the fish for dinner」という完全な文が完成するという点に注意しましょう。

- 13 The boy whom you see over there is Ben.

15 ⇒ ⑥ 16 ⇒ ② (8-7-6-5-2-3-1-4)

▶ 関係代名詞の目的格 whom の後ろには、他動詞や前置詞で終わった不完全な文がこなければなりません。ここでは、see という他動詞の後ろに目的語がない不完全な文となっています。この抜けている部分に先行詞の the boy を持てると「you see the boy over there」という完全な文ができます。

- 14 This is why it is better to learn words in a sentence.

17 ⇒ ④ 18 ⇒ ⑤ (2-4-1-7-5-3-6)

▶ this is why S V は、「こういうわけで S は V する」という意味の慣用表現。もともとは this is the reason why S V (これが S が V する理由だ) という表現だったのが、先行詞の the reason が省略されてこの形になっています。

- 15 He spent all the money that he had.

19 ⇒ ① 20 ⇒ ⑦ (6-1-8-5-7-4-3) 不要 = ② every

▶ 関係代名詞の目的格の後ろには、目的語が抜けた不完全な文がきます。この抜けている部分に先行詞を持てると、完全な文になります。関係代名詞の目的格の前後には必ずこの関係が成り立ちます。また、先行詞に all, every, only など強い修飾語が付いている場合、that が好んで使われることに注意しましょう。

- 16 The building whose roof you can see beyond the railroad is our church.

21 ⇒ ② 22 ⇒ ④ (8-2-7-6-4-1-5-3)

▶ 先行詞の the building (建物) の所有物にあたる roof (屋根) を後ろに置いて説明するため、関係代名詞の所有格 whose を使います。「先行詞 whose 所有物」の後ろには動詞や不完全な文が続くので、他動詞 see の後ろに目的語がない形にします。



- 17 ロンドンに住んでいる友人が、私に手紙をくれた。

A friend \_\_\_\_\_ 23 \_\_\_\_\_ 24 \_\_\_\_\_ a letter.

- ① has            ② who            ③ me            ④ given  
⑤ mine           ⑥ lives           ⑦ in London   ⑧ of

[大妻中野高]

- 18 その湖へ行く道は彼しか知らないのですか。(1語不要)

\_\_\_\_\_ 25 \_\_\_\_\_ 26 \_\_\_\_\_ the way to the lake?

- ① the            ② goes            ③ he            ④ that  
⑤ knows       ⑥ person       ⑦ only           ⑧ is

[立教高]

- 19 昨日私たちが会ったサッカー選手はとても背が高かった。

The football player \_\_\_\_\_ 27 \_\_\_\_\_ 28 \_\_\_\_\_.

- ① met            ② whom           ③ tall            ④ very  
⑤ we            ⑥ was            ⑦ yesterday

[錦城学園高]

- 20 彼はその機械の使い方を知っている技師の1人を知っている。

He \_\_\_\_\_ 29 \_\_\_\_\_ 30 \_\_\_\_\_ use the machine.

- ① know           ② one            ③ to            ④ the engineers  
⑤ knows       ⑥ how           ⑦ who           ⑧ of

[芝浦工大柏高]

- 17 A friend of mine who lives in London has given me a letter.

23 ⇒ ⑤    24 ⇒ ⑥ (8-5-2-6-7-1-4-3)

▶「友人」を「友人の1人」と考えて「A friend of mine」とし、その後ろに主格の関係代名詞 who を置きます。関係代名詞の主格の後ろの動詞は、先行詞に合わせることに注意。先行詞は三人称単数の a friend of mine (私の友人) なので、三単現の s を忘れずに付けましょう。

- 18 Is he the only person that knows the way to the lake?

25 ⇒ ⑦    26 ⇒ ④ (8-3-1-7-6-4-5) 不要=② goes

▶「彼がその湖へ行く道を知っているただ1人の人ですか」という英文を考えます。先行詞 the only person は三人称単数なので、動詞 knows には三単現の s が付いているという点に注意。また、先行詞に only, every, all などの強い修飾語が付いている場合は、which や who より that が好んで使われます。

- 19 The football player whom we met yesterday was very tall.

27 ⇒ ⑤    28 ⇒ ⑥ (2-5-1-7-6-4-3)

▶関係代名詞の目的格の後ろには、他動詞や前置詞の後ろに名詞が抜けている不完全な文がきます。この抜けている部分に先行詞を持ってくると、完全な文ができあがります。関係代名詞の目的格の前後には、必ずこのような関係が成り立つことに注意しておくこと。また、この文の whom は省略することもできます。

- 20 He knows one of the engineers who know how to use the machine.

29 ⇒ ④    30 ⇒ ① (5-2-8-4-7-1-6-3)

▶関係代名詞の主格の後ろの動詞は、必ず先行詞に合わせます。先行詞は the engineers という複数形なので、三単現の s は必要ありません。know のような動詞を直後に置いて修飾部分を作るのは主格の関係代名詞です。

CHECK  
YOUR  
LEVEL

1st TRY

30点

2nd TRY

30点

3rd TRY

30点

▶ 0 ~ 19 点 → Work harder!  
▶ 20 ~ 24 点 → OK!  
▶ 25 ~ 28 点 → Way to go!  
▶ 29 ~ 30 点 → Awesome!



## ❖ リスニングが得意になるには？

TOEIC や英検などの資格試験はもちろんですが、最近ではセンター試験をはじめとした大学入試でもリスニング試験の出題が増加しつつあります。その影響で、「リスニングが苦手なのですが、どうすればいいですか？」という質問があとをたちません。

あたりまえのことですが、聞いてわかるためには、まず読んでわかるようにならなければなりません。それも、後ろから訳して英文の意味がわかるのではなく、簡単な英文でも構わないので、スラスラと左から右へと読んで理解できるような読解力が必要です。

まずは、英文を声に出して音読してみましょう。声に出しながら、同時に意味がとれるようになれば、まずは第一関門突破です。

次は、1つ1つの単語の発音やイントネーションに注意して発音してみてください。今まであまり気にしていなかった発音記号にも興味を持って、少しずつ舌と唇を鍛えていくことが大切です。実は英語の「聞き取り」は発音と大きく関わっていて、自分できちんと発音できない単語はなかなか聞き取ることもできないのです。

イントネーションに慣れるには、ラジオや映画や教材テープの英語をできるだけまねて、カッコよく読もうとしてみることです。英語の歌を聞いたり、カラオケで英語の歌を歌うのも最高の訓練です。生活の中で、できるだけたくさんの英語を耳に入れるようにしましょう。



# LEVEL-2 STAGE 3

ENGLISH GRAMMAR WORKBOOK  
STEP BY STEP

第7章 前置詞・接続詞

第8章 時制・仮定法

第9章 名詞・代名詞

第10章 その他



# 前置詞・接続詞

▶ 名詞の前に置かれて、時や場所などの意味を付け加える前置詞にはさまざまな使い方がありますが、試験によく出るものはある程度絞られてきます。また、文と文をつなぐ接続詞は、特に複雑な文を解釈したり、長い英文を読んだりするときに非常に重要になってきます。どちらも、問題を解きながら頻出パターンをしっかりと覚えていきましょう。

## 1 前置詞 on の用法

問 I was born  the evening of July 10.

- ① at                      ② in                      ③ on                      ④ from

[常総学院高]

「午前中に」「午後に」「夜に」という場合、普通は in the morning, in the afternoon, in the evening というように in を使って表現します。けれど、特定の朝、昼、夜のことをいう場合には、in という前置詞を on にしなければなりません。前置詞は時と場合による使い分けが非常に重要なので、普段からこまめにさまざまな前置詞の用法を文の中でチェックするように心がけましょう。

解答⇒3 (訳：私は7月10日の夕方に生まれた。)

## 2 till と by の違い

問 It is impossible for him to finish the work  five o'clock.

- ① till                      ② on                      ③ at                      ④ by

[日大豊山高]

till も by も「～まで」という意味の前置詞ですが、たまたま日本語が同じというだけで、表す内容は全く違ったものになります。till ～ は、until ～ と書き換えることもでき、「～まで (ずっと……している)」という、その時点までの継続を

表す場合に使われます。また、by ～ は「～まで (に……してしまう)」という、その時点までに動作が完了する場合には使われます。

ここでは「5時までには仕事を仕上げてしまう」というように、その時点までの動作の完了を示す文脈で使われているので、答えは④ by です。

なお、till[until] は接続詞としても使うことができ、その場合には till[until] S V (SがVするまで) のように、後ろに直接、節(S V)が置かれます。また、by は接続詞としては使うことができず、接続詞のように使うには by the time S V (SがVするまでに) という形にしなければなりません。

### まぎらわしい接続詞と前置詞

<input type="checkbox"/> { in spite of ～	▶ ～にもかかわらず	→ 前置詞
though S V	▶ SがVするけれども	→ 接続詞
<input type="checkbox"/> { during ～	▶ ～の間	→ 前置詞
while S V	▶ SがVする間	→ 接続詞

解答⇒4 (訳：彼がその仕事を5時までに終らせることは不可能だ。)

## 3 命令文, and[or] S V

問 Get up early,  you will miss the first train.

- ① and                      ② but                      ③ or                      ④ when

[常総学院高]

命令文の後ろに and を置くと、「そうすれば」という意味で後ろの文をつなぐことができます。また、or を置くと、「さもなければ」という意味で文をつなぐことができます。どちらの接続詞を使うかは、前後の文の意味のつながり(文脈)に注目すること。ここでは、「早く起きる」ということをしなければ「電車に乗り遅れる」という文脈なので、③ or が正解です。接続詞の問題の多くは、接続詞によってつながれる文の意味関係によって答えを絞り込まなければなりません。

解答⇒3 (訳：早く起きなさい。さもないと始発電車に乗り遅れますよ。)



問1：次の英文の空欄に入れるのに最も適当なものを選び。

□1 Campbell has not seen Mason 1 .

- ① during a week                      ② next week  
③ last week                            ④ for a week

□2 My father will come home 2 an hour.



- ① till                                      ② at  
③ during                                ④ in

[専修大松戸高]

□3 I was born 3 the morning of the third of May.

- ① in                                        ② on  
③ at                                        ④ by

[東海大浦安高]

□4 You must come back 4 seven o'clock.

- ① till                                      ② in  
③ by                                        ④ for

[東海大浦安高]

□5 The first period class begins 5 8:40.

- ① at                                        ② in  
③ for                                       ④ from

[成城高<改>]

□6 It's very kind 6 you to help me.



- ① for                                       ② of  
③ to                                        ④ with

[青山学院高等部]

□1 キャンベルはメイソンに1週間会っていない。

1 ⇒ ④ for a week

▶ 不特定の期間を表して「～の間」という場合には、for という前置詞を使うこと。ちなみに、during という前置詞は、後ろに the などの冠詞が付いたりするような特定の期間がくる場合に使われます。③ last week は「先週」という過去の時点を表すので、現在完了形と共に使うことはできません。

□2 私の父は1時間もすれば帰ってくるでしょう。

2 ⇒ ④ in

▶ 現在からの時間の経過を表して、「1時間経ったら」という場合には、in という前置詞を使います。after an hour や an hour later は過去形の文で使われることに注意しておきましょう。

□3 私は5月3日の午前中に生まれました。

3 ⇒ ② on

▶ 「午前中に」は、普通は in the morning と表現します。ただ、「5月3日の午前中に」といった特定の午前中の場合には、on the morning of ..... というように on という前置詞が使われます。もちろん、このルールは afternoon (午後) や evening (夜) にもあてはまります。

□4 あなたは7時までに戻らなくてはなりません。

4 ⇒ ③ by

▶ by という前置詞は「～までに」という意味で、ある時間までに完了する場合に使います。これに対して till[until] (～まで) という前置詞は、ある時間までずっと継続することを表しています。この文では、7時までに戻ってくることに完了するわけですから、完了を表す ③ by を選びましょう。

□5 1時間目は8時40分から始まる。

5 ⇒ ① at

▶ 時刻の前には at という前置詞が置かれます。日付の前には on, 週, 月, 年などの長い期間の場合には in が置かれることにも注意しておくこと。「begin from ~」とはいいません。

□6 私を手伝ってくれるとは、あなたは親切ですね。

6 ⇒ ② of

▶ 形式主語構文で不定詞の意味の上での主語を表そうとする場合、普通は it is ... for ~ to V (～にとってVするのは…だ) とします。ただし、it is の後ろに kind など人の性質を表す形容詞がきている場合は、for ではなく of という前置詞を使って、「it is 人の性質を表す形容詞 of 人 to V」という形をとります。



□7 [7] she is old, she can read without glasses.

① Because

② As

③ But

④ Though

[日白学園高]

□8 You won't catch the train [8] you hurry.

① if

② as

③ or

④ unless

[日大習志野高]

□9 Get up early, [9] you will catch the first train.

① and

② but

③ or

④ so

[東海大浦安高<改>]

□10 Please be quiet [10] she is playing the violin.



① before

② until

③ while

④ during

[東京工業大附属工業高<改>]

□7 彼女は年をとっているけれども、めがねなしで読むことができる。

[7]⇒④ Though

▶ 普通は年をとったら目は悪くなるはずなので、「年をとっている」と「めがねなしで読める」というのは、相反する内容を持った節と考えられます。このような2つの節をつなぐ場合、**but** や **though** などの接続詞が使われますが、この文のように2つの節の一番手前に置いて節と節をつなぐのは④ **Though** です。

□8 もしあなたが急がなければ、その電車に乗れないでしょう。

[8]⇒④ unless

▶ **unless S V**は「SがVしなければ」という意味で使われる接続詞で、if と not を合わせたような意味をもちます。接続詞の問題を解くときには、つながれる2つの節の関係をよく検討して問題を解きましょう。

□9 早く起きなさい。そうすれば始発電車に間に合いますよ。

[9]⇒① and

▶ 命令文の後ろで「そうすれば」という場合には **and**、「さもないと」という場合には **or** という接続詞を使います。ここでは、前後の節の関係を考えて、① **and** が正解。

□10 彼女がバイオリンを弾いている間、どうか静かにしてください。

[10]⇒③ while

▶ 同じ「～の間」という意味を表す **while** と **during** の区別に注意すること。**while** は接続詞なので後ろに節が続き、**during** は前置詞なので後ろに名詞が続きます。ここでは、空所の後ろには節が置かれているから、③ **while** が答えになります。ちなみに ① **before** や ② **until** は接続詞としても前置詞としても使われる言葉ですが、ここでは意味が合わないので不可です。

問2：日本語に合う英文になるように選択肢の語を並べかえ、空欄に入るものを選び。

- 11 帽子を手にしたあの紳士は彼女の夫です。

The gentleman with \_\_\_\_\_ 11 \_\_\_\_\_ 12 \_\_\_\_\_.

- ① his            ② her husband   ③ hand            ④ in  
⑤ is            ⑥ a hat

[専修大松戸高]

- 12 彼女は1時間くらいでここに来るでしょう。

She \_\_\_\_\_ 13 \_\_\_\_\_ 14 \_\_\_\_\_.

- ① be            ② hour            ③ here            ④ in  
⑤ an            ⑥ or            ⑦ will            ⑧ so

[明治大付属明治高]

- 13 彼は1960年9月22日7時に生まれました。(1語不要)

He was \_\_\_\_\_ 15 \_\_\_\_\_ 16 \_\_\_\_\_.

- ① at            ② 1960            ③ born            ④ by  
⑤ seven        ⑥ on            ⑦ in            ⑧ September 22

[常総学院高]

- 14 向こうの湖に浮かんでいる彼のボートが見えますか。

Can you see \_\_\_\_\_ 17 \_\_\_\_\_ 18 \_\_\_\_\_?

- ① his            ② the            ③ there            ④ over  
⑤ on            ⑥ boat            ⑦ lake

[錦城学園高]

- 15 4回読んでやっとその文がわかりました。

◆ I \_\_\_\_\_ 19 \_\_\_\_\_ 20 \_\_\_\_\_.

- ① times        ② the sentence   ③ read            ④ understood  
⑤ four        ⑥ it            ⑦ I            ⑧ before

[慶應義塾高]

- 16 母はたいへん忙しいので、私たちと一緒に行くことができません。

Mother \_\_\_\_\_ 21 \_\_\_\_\_ 22 \_\_\_\_\_.

- ① go            ② busy            ③ can't            ④ is  
⑤ with us        ⑥ that            ⑦ so            ⑧ she

[日本大学高]

- 11 The gentleman with a hat in his hand is her husband.

11 ⇒ ④ 12 ⇒ ⑥ (6-4-1-3-5-2)

▶前置詞 with は、後ろに名詞や形容詞、分詞、「前置詞＋名詞」などを置いて、「…な状態にして」という意味で前の名詞を修飾することができます。これを付帯状況の with といいます。この文では、with から hand までの部分が「帽子を手にした状態の」という意味で、前の名詞の The gentleman を修飾しています。

- 12 She will be here in an hour or so.

13 ⇒ ① 14 ⇒ ④ (7-1-3-4-5-2-6-8)

▶未来を表す助動詞 will を使った文で、現在からの時間の経過を表す場合には、in という前置詞を使います。「1時間くらい」は、an hour or so. ~ or so は「～かそこら」という意味です。

- 13 He was born at seven on September 22 in 1960.

15 ⇒ ① 16 ⇒ ⑥ (3-1-5-6-8-7-2) 不要=④ by

▶時刻の前には at、日付の前には on という前置詞が置かれます。また、週、年、月、季節などの比較的長い期間を表す言葉の前には、in という前置詞が使われることにも注意。この文からわかるとおり、英語では小さな単位を前に、大きな単位を後ろに置くので、in 1960 が最後にきます。

- 14 Can you see his boat on the lake over there?

17 ⇒ ⑤ 18 ⇒ ④ (1-6-5-2-7-4-3)

▶on という前置詞は接触を表します。湖の上にボートが浮いているという場合は、湖にボートが接触しているようにとらえられるから、on という前置詞が使われます。over there は「あそこで、あそこに」という意味の熟語。「on the lake over there」が前の his boat を修飾する形にします。

- 15 I read the sentence four times before I understood it.

19 ⇒ ⑤ 20 ⇒ ⑧ (3-2-5-1-8-7-4-6)

▶before や after は、接続詞としても前置詞としても使うことができます。ここでは、後ろに節を置いて、接続詞として使います。この文の直訳は「私は理解する前にその文を4回読みました。」となります。～times は「～回」という意味。

- 16 Mother is so busy that she can't go with us.

21 ⇒ ⑦ 22 ⇒ ③ (4-7-2-6-8-3-1-5)

▶so ... that S can't[couldn't] V は、「非常に…なのでSはVできない[できなかった]」という意味の超重要表現。この文は、Mother is too busy to go with us. というように、too ... to V (…すぎてVできない) の構文を使って書き換えることもできます。



- 17 それは重要であるばかりでなく必要でもある。

頻

\_\_\_\_\_ 23 \_\_\_\_\_ 24 \_\_\_\_\_  
 ① necessary ② it ③ important ④ only  
 ⑤ is ⑥ but ⑦ not ⑧ also

〔湘南学園高〕

- 18 タクシーがその病院の前で止まりました。

\_\_\_\_\_ 25 \_\_\_\_\_ 26 \_\_\_\_\_  
 ① the ② a ③ hospital ④ in  
 ⑤ taxi ⑥ of ⑦ stopped ⑧ front

〔湘南学園高〕

- 19 食べるのは手を洗ってからにしてください。

\_\_\_\_\_ 27 \_\_\_\_\_ 28 \_\_\_\_\_  
 ① hands ② eat ③ wash ④ before  
 ⑤ don't ⑥ you ⑦ your

〔中央大付属高〕

- 20 父が到着したら、すぐにそのことを尋ねます。(1語不要)

I will ask \_\_\_\_\_ 29 \_\_\_\_\_ 30 \_\_\_\_\_  
 ① arrives ② as he ③ when ④ about  
 ⑤ as ⑥ my father ⑦ soon ⑧ it

〔桐蔭学園高&lt;改&gt;〕

- 17 It is **not only** important **but also** necessary.

23 ⇒ ⑦ 24 ⇒ ⑥ (2-5-7-4-3-6-8-1)

▶ **not only A but also B** は、「Aばかりでなく B も」という意味の重要表現。この表現では、also を省略して **not only A but B** とすることもできます。

- 18 A taxi stopped in front of the hospital.

25 ⇒ ④ 26 ⇒ ⑥ (2-5-7-4-8-6-1-3)

▶ **in front of** ~ (〜の前で) は、3つの単語で1つの大きな前置詞の働きをしています。この熟語は **before** ~ にも書き換えることができます。**before** は時間だけではなく、場所についても「〜の前に」という意味で使うことができます。

- 19 Don't eat **before** you wash your hands.

27 ⇒ ④ 28 ⇒ ③ (5-2-4-6-3-7-1)

▶ **before** や **after** は、接続詞としても前置詞としても使うことができるということに注意しておくこと。この文では後ろに you wash your hands という節を置いて、接続詞として before を使いましょう。直訳は「手を洗う前に食べてはいけません」となります。

- 20 I will ask my father about it **as soon as** he arrives.

29 ⇒ ⑤ 30 ⇒ ② (6-4-8-5-7-2-1) 不要=③ when

▶ **as soon as S V** (S が V するとすぐに) を使うのがポイントです。また、ask A about B で「B について A に尋ねる」の意味を表します。

CHECK  
YOUR  
LEVEL

1st TRY

30点

2nd TRY

30点

3rd TRY

30点

▶ 0 ~ 19 点 ⇒ **Work harder!**  
 ▶ 20 ~ 24 点 ⇒ **OK!**  
 ▶ 25 ~ 28 点 ⇒ **Way to go!**  
 ▶ 29 ~ 30 点 ⇒ **Awesome!**



# 時制・仮定法

▶ ここでは、さまざまな時制の使い分けと、現在や過去に起こった事実の反対をいうときに使われる仮定法という表現を勉強します。仮定法は、例えば「私が鳥だったら」のように現実にはありえないようなことをいう場合に使われる表現です。

## 1 副詞節の中の時制

問 We will go on a picnic if it  fine tomorrow.

- ① is                  ② will be                  ③ has been                  ④ been

[目白学園高<改>]

「明日晴れたら」という if 節は、「ピクニックに行く」という前の文の動詞の部分にかかっています。動詞を修飾するのは副詞だから、このような節のことを副詞節といいます。「～ならば」という条件を表す if 節や、時間的なことを表す副詞節の中では、未来のことでも現在形や現在完了形で書かなければならないというルールがあります。ここでは、特に完了の意味はないので、現在形の ① is が正解です。未来形の ② will be を選ばないように特に注意しましょう。

解答⇒1 (訳：明日晴れたら、私たちはピクニックに行く予定です。)

## 2 現在完了形

問 A: Hello. May I speak to Keiko?

B: Sorry, she .

- ① has already come back from Tokyo  
② has gone to Tokyo  
③ has been to Tokyo  
④ had gone to Tokyo

[日大鶴ヶ丘高<改>]

完了形の問題の中でも特によく出るのが、have been to ～ と have gone to ～ の違いです。have been to ～ は「～に行ったことがある」、「～に行ってきたところだ」という意味になり、もう戻ってきていることを示します。それに対して、have gone to ～ は「～に行ってしまった」という、もうここにはいないことを示す意味があるので注意すること。ここでは、彼女がその場にはいないということが会話から読み取れるので、② has gone to Tokyo が正解です。

解答⇒2 (訳：A：もしもし、ケイコとお話がしたいんですけど。

B：ごめんなさい。あの娘は東京に行ったの。)

## 3 仮定法過去完了

問 If I had known my parents were going to come, I  my room.

- ① had cleaned                  ② would had cleaned  
③ would have cleaned                  ④ cleaned

現在や過去の事実と反対のこと、つまり現実にはないことやなかったことを表現するには仮定法という形が使われます。仮定法では現在のことは過去形、過去のことは過去完了形を使ったりと、時制が1つ前にずれたような表現になります。まずは、基本形をしっかりと押さえてそれを正確にあてはめていく訓練から始めること。

### 仮定法の基本形

(過去) S<sub>1</sub>が V<sub>1</sub>していたら

If S<sub>1</sub> had V<sub>1pp</sub>

(現在) S<sub>1</sub>が V<sub>1</sub>するならば

If S<sub>1</sub> V<sub>1p</sub>

(過去) S<sub>2</sub>は V<sub>2</sub>しただろう

S<sub>2</sub> would have V<sub>2pp</sub>

(現在) S<sub>2</sub>は V<sub>2</sub>するだろう

S<sub>2</sub> would V<sub>2</sub>

ここでは、過去のことに對する仮定を表す If S had Vpp という形が前半にきています。「もし両親が来ることを知っていたら、私は部屋を掃除しておいただろう」という意味を推測して、仮定法の基本形に忠実に、「(過去) S は V しただろう」という意味の S would have Vpp の形を作ります。仮定法は基本公式さえ押さえれば簡単に答えが出るので早くマスターしましょう。

解答⇒3 (訳：もし両親が来ることを知っていたら、部屋を掃除しておいただろうに。)



問1：次の英文の空欄に入れるのに最も適当なものを選び。

□1 Tom is [1] breakfast now.

頻

- ① has ② to have  
③ had ④ having

[錦城学園高<改>]

□2 He said that he [2] apples.

- ① like ② likes  
③ liked ④ liking

[関東第一高]

□3 She [3] the piano when I came into the room.

- ① plays ② has played  
③ is playing ④ was playing

[立教高]

□4 John and Mary [4] for Chicago next month.

- ① leaves ② have left  
③ left ④ are leaving

[明治大付属明治高]

□5 He [5] Europe. He is not here in Japan.

- ① is going to ② has been to  
③ has gone to ④ had gone to

[東京学館浦安高]

□6 Do you know when [6] ?

難

- ① does the play start ② will the play start  
③ the play will start ④ the play has started

[明治大付属明治高]

□1 トムは今、朝食を食べている。

[1] ⇒ ④ having

★▶ 文の終わりに now (今)があるので、現時点で進行している物事を表しています。「be+Ving」で「Vしている」という意味の現在進行形を作ることができます。have は、「持っている」という意味のときには進行形にはできませんが、ここでは「食べている」という意味なので進行形にすることができます。

□2 彼はリンゴが好きだと言った。

[2] ⇒ ③ liked

▲▶ 英語では、同じ文の中で動詞がいくつか使われる場合、動詞の時制を一致させなければならないという時制の一致のルールがあります。ここでは、he said というように過去形の動詞が使われているので、③ liked が正解。

□3 私が部屋に入ったとき、彼女はピアノを弾いていた。

[3] ⇒ ④ was playing

▶ ここでは、when 以下の文が過去形で書かれているので、過去の時制を使わなければならないということがわかります。「私が部屋に入ったとき」という、過去の一時点でのことを表す過去進行形の④ was playing が正解です。

□4 ジョンとメアリーは来月シカゴに向けて出発する。

[4] ⇒ ④ are leaving

▶ 未来のことを表すには、will や be going to を使うことができますが、実は進行形を未来形の代わりに使うこともできます。ここでは、④ are leaving が正解。未来を表す進行形は、しばしば go, come, leave, arrive (到着する)などの「往來発着」を表す動詞について使われます。

□5 彼はヨーロッパに行っている。ここ日本にはいない。

[5] ⇒ ③ has gone to

▶ have been to ～は「～に行ったことがある」という意味で、have gone to ～は「～に行ってしまっただ」という意味になります。どちらも現在完了形を使った重要表現です。ここでは、彼はもう日本にいないわけですから、「ヨーロッパに行ってしまった」とわかります。答えは③ has gone to です。

□6 あなたはその劇がいつ始まるか知っていますか。

[6] ⇒ ③ the play will start

▶ Do you know などの後ろに、「疑問詞+S V」を名詞のような働きをさせて組み込むときには、疑問詞の後ろは肯定文の語順になります。①、②は疑問文の語順をしているので不可。④の現在完了形は、when のように明確な時の一点を表す表現とは一緒に使われません。よって、未来形の肯定文③ the play will start が正解。



□7 We will start when 7 .

- ① he will get back                      ② will he get back  
③ he gets back                          ④ does he get back

[明治大付属明治高]

□8 As soon as he 8 back, he will tell you the news.

- ① comes                                  ② will come  
③ came                                  ④ come

[東海大望洋高]

□9 If Ted 9 here, he could help us clean our room.

難

- ① is                      ② were                      ③ be                      ④ being

[英検準2級]

□10 If the weather had been nice yesterday, we 10 on a picnic.

- ① have gone                              ② will have gone  
③ would go                              ④ would have gone

□7 私たちは、彼が戻ってきたら始めるつもりです。

7 ⇒ ③ he gets back

▶ when は「いつ」という疑問詞だけではなく、when S V の形で「S が V するとき」という意味の接続詞としても使われます。このような「時」を表す副詞節の中では、未来のことも現在形で表さなければならないというルールがあります。よって、正解は現在形の ③ he gets back。

□8 彼は戻ってきたらすぐに、あなたにそのニュースを言うだろう。

8 ⇒ ① comes

▶ as soon as S V は「S が V するとすぐに」という意味で、動詞にかかる副詞の働きをする節、つまり副詞節です。このような副詞節の中では、未来のことも現在形で表現しなければなりません。ここでは主語が he なので、三人称単数の s が付いた ① comes が答えです。

□9 もしテッドがここにいたら、私たちの部屋の掃除を手伝えるだろう。

9 ⇒ ② were

▶ 現在のことに対する仮定を表す文。現在にありえないことを想定する場合、if 節では過去形、主節では would, could などが使われます。ここでは過去形 ② were が正解。仮定法の文では、be 動詞の過去形は普通は was ではなく were を使います。なお、help ~ V は「～が V するのを助ける」の意味です。

□10 もし昨日天気がよかったら、私たちはピクニックに行っていただろう。

10 ⇒ ④ would have gone

▶ 過去のことに対する仮定を表す文。過去にありえなかったことを仮定する場合には、if 節では過去完了形、主節では would have Vpp や could have Vpp などが使われます。ここでは、この形にあてはまる ④ would have gone を選ぶこと。「ピクニックに行く」は go on a picnic といいます。



問2：日本語に合う英文になるように選択肢の語を並べかえ、空欄に入るものを選び。

- 11 去年あなたがロンドンに行ったときはとても寒かったですか。

Was it 11 12 last year?  
 ① when ② very ③ visited ④ cold  
 ⑤ you ⑥ London

[錦城学園高]

- 12 彼は先週から仕事を休んでいます。

He 13 14 .  
 ① work ② last ③ absent ④ been  
 ⑤ from ⑥ has ⑦ since ⑧ week

[東海大浦安高]

- 13 あなたは今までにシカゴに行ったことがありますか。

15 16 ?  
 ① to ② have ③ been ④ Chicago  
 ⑤ you ⑥ ever

[志学館高]

- 14 こんなに美しいメロディーを今まで聞いたことがありません。

I 17 18 this.  
 ① such ② melody ③ a ④ heard  
 ⑤ as ⑥ beautiful ⑦ never ⑧ have

[大妻中野高]

- 15 彼が亡くなって3年になります。

19 20 .  
 ① he ② three ③ have ④ since  
 ⑤ passed ⑥ years ⑦ died

[明治大付属明治高]

- 16 新聞によると、アメリカでは寿司の人气が高まったそうだ。

It 21 22 very popular in America.  
 ① has ② in ③ become ④ the newspaper  
 ⑤ reported ⑥ that ⑦ is ⑧ sushi

[開成高]

- 11 Was it very cold when you visited London last year?

11⇒① 12⇒③ (2-4-1-5-3-6)

▶先頭のbe動詞がwasなので、過去の文だとわかります。whenという接続詞を使ったwhen S V (SがVするとき)という表現をうまく使いこなしましょう。

- 12 He has been absent from work since last week.

13⇒④ 14⇒⑦ (6-4-3-5-1-7-2-8)

▶現在までの継続を表す現在完了形の文。現在完了形は、have Vppの形で、現在までの継続、経験、完了を表すことができます。継続を表す現在完了形の後ろにくるsince (……以来)は、前置詞や接続詞として使うことができます。「～を休む[欠席する]」はbe absent from～という熟語で表します。

- 13 Have you ever been to Chicago?

15⇒⑥ 16⇒① (2-5-6-3-1-4)

▶「～に行ったことがある」という意味を表す表現は、have been to～を使うこと。ここでは、have been toのhaveが前に出て、疑問文になっています。また、Have you ever Vpp?という表現は、「今までにVしたことがありますか」という意味で、現在完了形の経験を表す重要表現。

- 14 I have never heard such a beautiful melody as this.

17⇒④ 18⇒③ (8-7-4-1-3-6-2-5)

▶経験を表す現在完了形の文。have never Vpp (これまでに一度もVしたことがない)の後ろに、such a ...～(こんなに…な～)という表現が置かれると、最上級のような意味を表すことができます。この文は、This is the most beautiful melody that I have ever heard.と書き換えることもできます。

- 15 Three years have passed since he died.

19⇒③ 20⇒④ (2-6-3-5-4-1-7)

▶期間 have passed since S Vpという構文は、「SがVしてから～の期間が経つ」という意味の重要表現。この文は、it is 期間 since S Vpという構文で書き換えて、It is three years since he died.ともいえます。

- 16 It is reported in the newspaper that sushi has become very popular in America.

21⇒⑤ 22⇒① (7-5-2-4-6-8-1-3)

▶先頭にくるitは形式主語で、後ろのthat節を指します。is reportedは、受動態で現在形。that節の中の現在完了形は、あくまでも現在の状態を示す表現だから、現在形と一緒に使われても全く不自然ではないことに注意。なお、It is reported that S Vの直訳は「SがVすると報告されている」で、これはIt is said that S V (SがVすると言われている、SはVするそうだ)と同様の表現です。



- 17 今度の日曜日には何をするつもりですか。

\_\_\_\_\_ 23 \_\_\_\_\_ 24 \_\_\_\_\_ ?  
 ① Sunday ② do ③ what ④ next  
 ⑤ you ⑥ are ⑦ to ⑧ going

〔東海大浦安高〕

- 18 間もなく彼はそこに着くでしょう。

\_\_\_\_\_ 25 \_\_\_\_\_ 26 \_\_\_\_\_ there.  
 ① he ② be ③ not ④ it  
 ⑤ gets ⑥ will ⑦ before ⑧ long

〔明治大付属明治高〕

- 19 彼が帰宅したとき、それについて彼に尋ねてみましょう。

I \_\_\_\_\_ 27 \_\_\_\_\_ 28 \_\_\_\_\_ home.  
 ① him ② comes ③ it ④ will  
 ⑤ when ⑥ about ⑦ ask ⑧ he

〔志学館高〕

- 20 雨が降り出さないうちに帰りましょう。

\_\_\_\_\_ 29 \_\_\_\_\_ 30 \_\_\_\_\_  
 ① back ② begins ③ go ④ it  
 ⑤ let's ⑥ rain ⑦ to ⑧ before

〔同志社高〕

- 17 What are you going to do next Sunday?

23 ⇒ ⑧ 24 ⇒ ② (3-6-5-8-7-2-4-1)

▶まず、疑問詞の what を最初に置きます。未来を表す表現には will, be going to がありますが、疑問詞の what の後ろなので疑問文を使います。疑問文にするには、be動詞を主語の前に出します。

- 18 It will not be long before he gets there.

25 ⇒ ③ 26 ⇒ ⑦ (4-6-3-2-8-7-1-5)

▶ it will not be long before S V は、「まもなく S は V するだろう」という意味の重要表現。これは、S will V soon と書き換えて、He will get there soon. ともいえます。

- 19 I will ask him about it when he comes home.

27 ⇒ ⑦ 28 ⇒ ⑤ (4-7-1-6-3-5-8-2)

▶「それについて彼に尋ねる」は、ask him about it と表します。when S V (S が V するとき) が、動詞を修飾する副詞節として使われているときには、未来のことでも現在形で表さなければなりません。時を表す副詞節の中では現在形を使うというルールは頻出なので、しっかりと覚えておきましょう。

- 20 Let's go back before it begins to rain.

29 ⇒ ⑧ 30 ⇒ ② (5-3-1-8-4-2-7-6)

▶ before や after は、前置詞や接続詞として使うことができます。ここでは、後ろに主語と述語を置いて接続詞として使います。「雨が降る」のは未来のことですが、before S V (S が V する前に) は時を表す副詞節なので、現在形を使います。「雨が降り出さないうちに」を「雨が降る前に」と言い換えて考えることが大切です。

CHECK  
YOUR  
LEVEL

1st TRY

2nd TRY

3rd TRY

30点

30点

30点

▶ 0 ~ 19 点 ⇒ Work harder!  
 ▶ 20 ~ 24 点 ⇒ OK!  
 ▶ 25 ~ 28 点 ⇒ Way to go!  
 ▶ 29 ~ 30 点 ⇒ Awesome!



# 名詞・代名詞

▶ 名詞や代名詞に強くなるには、まずは冠詞の a と the の違いをしっかり理解することが必要です。また、数えられる名詞（可算名詞）と数えられない名詞（不可算名詞）の違いに気をつけて、さまざまな問題を考える力を磨くことも大切。辞書には、可算名詞は□、不可算名詞は◇という記号で示してあるので、普段から気をつけて勉強しましょう。

## 1 another の用法

問 I don't like this umbrella. Show me □, please.

- ① it                      ② them                      ③ another                      ④ other

〔東京学館浦安高〕

この問題を解く際にまず知らなければならないのが、a と the の違い。a ～ は「他にもある中である 1 つの～」、the ～ は「すでにどれだか知っていると思うけど例のあの～」という意味を表します。ここでは、ある傘が気に入らないから、「いろいろある中で別のもう 1 つの傘を見せてくれ」と言っています。umbrella という名詞を補うとすれば、an umbrella が空所に入ることになります。このような「a + 名詞」の反復を避ける代名詞には、one や「もう 1 つの」という意味をもった another があります。another は、もともと an と other が組み合わさってできた代名詞です。なお、「the + 名詞」を代名詞に変えると it や that になります。

解答⇒3（訳：この傘は好きじゃないわ。違うのを見せてください。）

## 2 other の用法

問 I have two brothers. One lives in Okayama and □ lives in Sapporo.

- ① another                      ② other                      ③ the other                      ④ a second

〔植草学園文化女子高〕

2 人の兄弟のうち、1 人が岡山に住んでいるということは、残ったのはあと 1 人。このように、あと 1 人だとわかりきっているものの前には the を付けなければなりません。よって、ここでは③ the other が正解。2 つのものに関して、1 つ、もう 1 つ（1 人、もう 1 人）という場合には、one, the other という表現が使われます。

① another は、他にも残りがある場合に使われることに注意すること。

解答⇒3（訳：私には 2 人の兄弟がいる。1 人は岡山に住んでいて、もう 1 人は札幌に住んでいる。）

## 3 不可算名詞

問 Will you give me □ ?

- ① five sheets of papers                      ② five sheet of papers  
③ five sheets of paper                      ④ five sheet of paper                      〔日大豊山高〕

「紙」という意味の paper は、普通は不可算名詞として扱います。不可算名詞を数える場合、例えば紙だったら a sheet of paper, two sheets of paper という数え方をしなければなりません。よって③ five sheets of paper が正解。数え方は不可算名詞の種類によってさまざまで、例えばコーヒーなら a cup of coffee, two cups of coffee, ミルクなら a glass of milk, two glasses of milk となります。

解答⇒3（訳：紙を 5 枚いただけますか。）

### 注意すべき不可算名詞の数え方

- |                      |            |
|----------------------|------------|
| □ { a glass of water | ▶ 1 杯の水    |
| two glasses of water | ▶ 2 杯の水    |
| □ { a slice of toast | ▶ 1 枚のトースト |
| two slices of toast  | ▶ 2 枚のトースト |
| □ { a piece of chalk | ▶ 1 本のチョーク |
| two pieces of chalk  | ▶ 2 本のチョーク |
| □ { a sheet of paper | ▶ 1 枚の紙    |
| two sheets of paper  | ▶ 2 枚の紙    |



問1：次の英文の空欄に入れるのに最も適当なものを選び。

□1 You have a good camera. I want to buy 1, too.

- ① that                      ② it                      ③ same                      ④ one

[法政第一高]

□2 I don't like this bag. Please show me 2.

- ① one                                      ② another  
③ it                                        ④ other

[東海大浦安高]

□3 I have 3 to do this evening.

- ① many homeworks                      ② a lot of homework  
③ a few homework                      ④ few homework

[明治大付属明治高]

□4 You can help some people, but you can't help 4.



- ① someone                                      ② anyone  
③ no one                                        ④ everyone

[中央大付属高]

□5 There's 5 wrong with the television. It works perfectly.

- ① something                                      ② everything  
③ anything                                        ④ nothing

[中央大付属高]

□6 I have two brothers. One is in Osaka, and 6 is in Kobe.



- ① the others                                      ② the other  
③ other                                        ④ others

[東京学館浦安高]

□1 あなたはよいカメラを持っていますね。私も1つ買いたい。

1 ⇒ ④ one

▶ 特定の物を指して「例のあの～」という場合には **the**、「他にもある中で1つの～」という場合には **a** が名詞の前に置かれます。私が買いたいのは相手が持っている特定のカメラではないので、空所の中には本来 a camera が入るはず。「a + 名詞」の反復を避けて使われる代名詞は ④ one。

□2 私はこの鞆が気に入らない。他のを見せてください。

2 ⇒ ② another

▶ 他に何もなくてそれしかないという場合の「もう1つ」は **the other** で、他にもいろいろとあることを想定して「もう1つ」という場合には **another** が使われます。ここでは「いろいろある鞆の中でもう1つ見せてくれ」と言っている状況なので、② another が正解になります。

□3 私には今晚たくさんのやるべき宿題がある。

3 ⇒ ② a lot of homework

▶ homework は不可算名詞なので、a や複数形の s を付けることはできません。また、可算名詞に使われる many や few という言葉も使うことができません。よって、ここでは可算名詞にも不可算名詞にも使われる a lot of (たくさんの) が答えです。

□4 あなたは何人かの人々は助けられるが、すべての人を助けることはできない。

4 ⇒ ④ everyone

▶ 「not ..... all 複数名詞」や「not ..... every 単数名詞」は「すべての～が……というわけではない」(部分否定)という意味になります。「何人かの人々は助けられる」とあるので、④を入れて部分否定の文を作ること。② anyone だと「あなたは誰も助けることができない」(全面否定)という意味になるため文脈に合いません。

□5 そのテレビはどこも故障しているところはない。調子よく動く。

5 ⇒ ④ nothing

※ ▶ 後ろの文で、「テレビは完璧に作動している」とあるので、おかしいところはないという否定の意味を表すため ④ nothing を入れましょう。there is something wrong with ～ は「～はどこかおかしい、故障している」、there is nothing wrong with ～ は「～はどこもおかしくない」という意味の頻出表現。

□6 私には2人の弟がいます。1人は大阪にいて、もう1人は神戸にいます。

6 ⇒ ② the other

▶ 2人(2つ)の人間や物のことを、「1人、もう1人」または「1つ、もう1つ」というときは、one と the other を使うこと。2つのうち1つを取ってしまうと、残りの1つは特定されるため the が付きます。



□7 She went to a [7] high school.

① girl's

② girls's

③ girls'

④ girls

[立教高]

□8 "Is this your dictionary?" "No, it's [8]."

① mine

② me

③ his

④ my

[流通経済大付属柏高<改>]

□9 America is a beautiful country and the people [9] very kind.

① be

② am

③ is

④ are

[関東第一高]

□10 I went to the city hall by [10], not on foot.

頻

① my car

② a car

③ the car

④ car

[芝浦工大柏高]

□7 彼女は女子校に行った。

[7]⇒③ girls'

▶ 女子校には女子生徒がたくさんいるわけですから、ここでは複数形を所有格にしたものを選ばなければなりません。複数形を所有格にする場合は、sの後ろに「'」を打ち、本来その後ろになければならないsは省略されます(girls's→girls')。

□8 「これはあなたの辞書ですか。」「いいえ、それは彼のです。」

[8]⇒③ his

▶ your dictionaryに答えて、もともとはhis dictionaryが空所の中に入るはずですが、このように、「所有格+名詞」の名詞の部分が直前と反復してくどい場合には、所有代名詞のhisという形を使って反復を避けることができます。ちなみに、it'sは「it is」の短縮形です。

□9 アメリカは美しい国で、国民はとても親切だ。

[9]⇒④ are

▶ peopleという単語は、普通「人々」という意味で、複数形の名詞として扱われます。よって、複数名詞の場合に使われるbe動詞の④areが正解になります。

□10 私は徒歩ではなく車で市役所に行った。

[10]⇒④ car

▶ byという前置詞の後ろで、交通手段を表す言葉を使う場合には、aやtheの冠詞は使わず、by carやby busなどのように表現します。冠詞を使う場合は、in a carのように前置詞がbyでなくなってしまう。



問2：日本文に合う英文になるように選択肢の語を並べかえ、空欄に入るものを選び。

- 11 この上着をもっと小さなものと取り替えてください。(1語補足)

\_\_\_\_\_ 11 \_\_\_\_\_ 12 \_\_\_\_\_ ?  
 ① you                      ② change                      ③ will                      ④ this  
 ⑤ one                      ⑥ jacket                      ⑦ for                      ⑧ a

[穎明館高]

- 12 コーヒーをもう1杯いかがですか。



\_\_\_\_\_ 13 \_\_\_\_\_ 14 \_\_\_\_\_ ?  
 ① like                      ② of                      ③ would                      ④ cup  
 ⑤ you                      ⑥ coffee                      ⑦ another

[志学館高]

- 13 先生は手にチョークを2本持っていた。

The teacher \_\_\_\_\_ 15 \_\_\_\_\_ 16 \_\_\_\_\_ .  
 ① hands                      ② pieces                      ③ had                      ④ his  
 ⑤ of                      ⑥ two                      ⑦ in                      ⑧ chalk

[文教大付属高]

- 14 彼の家は私の家の向かい側です。

His \_\_\_\_\_ 17 \_\_\_\_\_ 18 \_\_\_\_\_ .  
 ① mine                      ② house                      ③ from                      ④ is  
 ⑤ the                      ⑥ street                      ⑦ across

[日大鶴ヶ丘高]

- 15 彼は私の父の友人です。



\_\_\_\_\_ 19 \_\_\_\_\_ 20 \_\_\_\_\_ .  
 ① my                      ② a                      ③ is                      ④ of  
 ⑤ friend                      ⑥ he                      ⑦ father's

[関東第一高]

- 16 彼は息子を救うために全力を尽くした。



He \_\_\_\_\_ 21 \_\_\_\_\_ 22 \_\_\_\_\_ .  
 ① did                      ② son                      ③ to                      ④ he  
 ⑤ all                      ⑥ his                      ⑦ save                      ⑧ could

[成蹊高]

- 11 Will you change this jacket for a smaller one?

11 ⇒ ① 12 ⇒ ⑦ (3-1-2-4-6-7-8-X-5) 補足 = smaller

▶ one という代名詞は、名詞の反復を避けて使うことができます。ここでは、直前の jacket の反復を避けて、a smaller one(もっと小さな上着)という形を使います。また、Will you V? は、「Vしていただけますか」という依頼を表す表現。change A for B は、「AをBと交換する」という意味の重要熟語です。

- 12 Would you like another cup of coffee?

13 ⇒ ⑤ 14 ⇒ ⑦ (3-5-1-7-4-2-6)

▶ coffee は不可算名詞なので、「1杯」「2杯」と数えるときには、a cup of coffee, two cups of coffee としなければなりません。「もう1杯」というときには、another(もう1つの)という形容詞を使って、another cup of coffee とします。Would you like ~? は、「～はいかがですか」という意味の会話表現。

- 13 The teacher had two pieces of chalk in his hands.

15 ⇒ ② 16 ⇒ ⑧ (3-6-2-5-8-7-4-1)

▶ chalk は不可算名詞なので、数えるときには a piece of chalk, two pieces of chalk というようにしなければなりません。不可算名詞には、冠詞の a や複数名詞の s を付けることはできないということに特に注意しておくこと。

- 14 His house is across the street from mine.

17 ⇒ ⑦ 18 ⇒ ⑥ (2-4-7-5-6-3-1)

▶ His house is across the street from my house. では、house という名詞が反復してくるので、「所有格+名詞」の反復を避けるために mine という所有代名詞を使います。across は「～の向かいに」という前置詞です。

- 15 He is a friend of my father's.

19 ⇒ ② 20 ⇒ ④ (6-3-2-5-4-1-7)

▶ my や your などの所有格と、冠詞の a や this (この), that (あの) は一緒に使うことができません。どうしても一緒に使いたい場合には、名詞の前に a, this, that などを置いて、「a 名詞 of 所有代名詞」の形を使いましょう。a friend of mine (私の友達) という表現は超頻出です。

- 16 He did all he could to save his son.

21 ⇒ ⑤ 22 ⇒ ③ (1-5-4-8-3-7-6-2)

▶ all は「すべての物事」という意味の代名詞として使うこともできます。ここでは、all の後ろに関係代名詞の that が省略されています。また、could の後ろの do という動詞もわかりきっているので省略されています。この文の省略を補うと、He did all that he could do to save his son. となり、直訳すると「彼は息子を救うために彼にすることができたすべての物事をした」となります。



- 17 アメリカではこの地図がとても役立ちました。(1語不要)

\_\_\_\_\_ 23 \_\_\_\_\_ 24 \_\_\_\_\_ America.  
 ① I                      ② map                      ③ was                      ④ in  
 ⑤ great                      ⑥ this                      ⑦ of                      ⑧ use

[常総学院高]

- 18 家から職場まで歩いてわずか5分です。(1語不要)

\_\_\_\_\_ 25 \_\_\_\_\_ 26 \_\_\_\_\_ to work.  
 ① only                      ② on foot                      ③ walk                      ④ it's  
 ⑤ my house                      ⑥ minutes'                      ⑦ five                      ⑧ from

[東京工業大附属工業高]

- 19 お茶をもう1杯飲みませんか。(1語不要)

\_\_\_\_\_ 27 \_\_\_\_\_ 28 \_\_\_\_\_ ?  
 ① have                      ② another                      ③ of                      ④ will  
 ⑤ tea                      ⑥ you                      ⑦ may                      ⑧ cup

[常総学院高]

- 20 私は砂糖を少しと卵を少し欲しい。(1語不要)

\_\_\_\_\_ 29 \_\_\_\_\_ 30 \_\_\_\_\_ .  
 ① a little                      ② a few                      ③ I                      ④ eggs  
 ⑤ want                      ⑥ sugar                      ⑦ and                      ⑧ sugars

[日本大学高]

- 17 This map was of great use in America.

23 ⇒ ③ 24 ⇒ ⑧ (6-2-3-7-5-8-4) 不要=① I

▶ be of use は「役に立つ」という意味の重要熟語。強調するには形容詞の great を使って be of great use とします。また, be useful という表現にも書き換えることができ, これを強調するには副詞の very を使って be very useful とします。

- 18 It's only five minutes' walk from my house to work.

25 ⇒ ⑥ 26 ⇒ ⑧ (4-1-7-6-3-8-5) 不要=② on foot

▶ it という代名詞は, 時間や距離, 天気, 明暗などを漠然と表す主語として使うことができます。また, five minutes などの複数形の名詞を所有格にする場合, s の後ろに「'」を打つだけでよいことを覚えておきましょう。walk は「徒歩, 歩行」という意味の名詞です。

- 19 Will you have another cup of tea?

27 ⇒ ② 28 ⇒ ③ (4-6-1-2-8-3-5) 不要=⑦ may

▶ 「1杯のお茶」は a cup of tea, 「もう1杯のお茶」は another cup of tea といいます。Will you V? は「V してくれませんか, V しませんか」の意味で, 依頼や勧誘を表す表現です。

- 20 I want a little sugar and a few eggs.

29 ⇒ ① 30 ⇒ ② (3-5-1-6-7-2-4) 不要=⑧ sugars

▶ sugar のような不可算名詞の前に置いて「少しの」という意味になるのは a little です。また, egg のような可算名詞の前に置いて「2, 3の」という意味になるのは a few。a little と a few の使い方に気をつけましょう。

CHECK YOUR LEVEL	1st TRY	2nd TRY	3rd TRY	
	30点	30点	30点	▶ 0 ~ 19 点 ⇒ Work harder!
				▶ 20 ~ 24 点 ⇒ OK!
				▶ 25 ~ 28 点 ⇒ Way to go!
				▶ 29 ~ 30 点 ⇒ Awesome!



# その他

▶ 最後は、さまざまな問題を解きながら、このレベル2の英文法を締めくくるために必要な頻出事項を網羅していきます。ここまでしっかり仕上げれば、このレベルの試験問題に関しては十分に合格点を取る力がつくでしょう。

## 1 付加疑問文

問 Let's go shopping in a department store,  ?

- ① shall we    ② do you    ③ don't you    ④ won't you

[東海大望洋高]

付加疑問文は、念押しをするときに使われる表現。Let's V. という文の後ろに付加疑問文を付ける場合には、shall we という形を使わなければなりません。

ちなみに、shall we を文頭に置いて Shall we V? という形で使っても、Let's V. と同じように「Vしましょう」という意味になることも覚えておきましょう。

解答⇒1 (訳: デパートに買い物に行きましょうよ、ねっ。)

### 付加疑問文

◎付加疑問文は、文の動詞や助動詞に合わせて肯定と否定を逆転させて作る。

☐ 〈be動詞〉 ▶ You **are** a student, **aren't** you?

▶ You **aren't** a student, **are** you?

☐ 〈一般動詞〉 ▶ You **like** apples, **don't** you?

▶ You **don't like** apples, **do** you?

\*一般動詞の文では、do や does や did を使う

☐ 〈助動詞〉 ▶ You **can** play tennis, **can't** you?

▶ You **can't** play tennis, **can** you?

## 2 感嘆文

問  a nice picture you have drawn!

- ① What    ② I    ③ How    ④ Very

[駒澤大高]

驚きや感動を表して、びっくりしたときに使われるのが感嘆文。感嘆文では what や how という疑問詞が使われますが、それぞれの使い方を正確に覚えておくことが大切です。

what の場合は、What a 形容詞 名詞 S V! もしくは、What 形容詞 複数名詞 S V! という形で使われて、「なんと…な～なのだろう」という意味になります。また、how の場合には、How 形容詞 [副詞] S V! という形で使われて、「なんと…にSはVするのだろうか」という意味になります。

ここでは、空所の後ろに「a 形容詞 名詞」の形がきているから、③ How ではなく① What が正解です。

解答⇒1 (訳: あなたはなんてすばらしい絵を描いたんだ。)

## 3 副詞的目的格

問 I'm going  after class.

- ① to home    ② to back home  
③ home    ④ to right home

[日大鶴ヶ丘高]

home という言葉は、go や come などの移動を表す動詞の後ろでは、副詞として使われます。副詞は直接動詞を修飾できるから、名詞の前に置く to や in などの前置詞は必要ないという点に注意。ここでは、前置詞も何も付いていない③ home が答えになります。

同じような使い方をする副詞に abroad (外国へ) があります。この abroad も、前に to や in の前置詞を付けて使うことはありません。覚えておきましょう。

解答⇒3 (訳: 私は放課後、家に帰るつもりだ。)



問1：次の英文の空欄に入れるのに最も適当なものを選び。

- 1 The bathtub was [1] overflowing. I turned the water off just in time.  
 ① nearly ② hardly ③ closely ④ already  
 [灘高]
- 2 Have you ever seen an elephant [2]?  
 ① already ② before  
 ③ once ④ then  
 [洛星高]
- 3 On my way [3] I was caught in a shower and got wet to the skin.  
 ① home ② to home  
 ③ for home ④ at home  
 [東京工業大附属工業高<改>]
- 4 [4] these books are!  
 ① How interested ② What an interesting  
 ③ How interesting ④ What interesting  
 [東海大浦安高]
- 5 He made [5] that we were all tired.  
 ① so a long speech ② a so long speech  
 ③ such long a speech ④ such a long speech  
 [法政大第一高]
- 6 I couldn't take part in the party yesterday, [6] could she.  
 ① but ② and ③ for ④ nor  
 [植草学園文化女子高]

- 1 浴槽はもう少しであふれるところだった。私は水を止めるのにちょうど間に合った。  
 [1]⇒① nearly  
 ▶ nearly や almost という副詞は「もう少しで……しそうになる」の意味、また hardly や scarcely という副詞は否定語で「ほとんど……ない」の意味があります。「ちょうど間に合って水を止めた」とあるから、「もう少しで水があふれるところだった」という状況を想像して① nearly を選ぶこと。
- 2 あなたは以前にゾウを見たことがありますか。  
 [2]⇒② before  
 ▶ Have you ever Vpp? は、「今までにVしたことがありますか」という意味の現在完了形（経験）を使った重要表現。これに「以前に」という意味を付け足すときには、before という副詞を使わなければなりません。① already は「すでに」、③ once は「一度」、④ then は「そのとき」という意味になります。
- 3 帰宅途中に私はにわか雨に出くわし、ずぶぬれになった。  
 [3]⇒① home  
 ▶ on one's way home は、「家に帰る途中」という意味の重要表現。この表現の home は副詞として使われているので、前に前置詞を置くことはできません。これは、go home, come home でも同じなので、× go to home や × come to home とはしないようにしましょう。
- 4 これらの本はなんておもしろいのだろう。  
 [4]⇒③ How interesting  
 ▶ 「How 形容詞[副詞] S V!」は「なんと…にSはVするのだろうか」という意味の驚きを表す表現。このような文のことを感嘆文といいます。interested は「興味を持っている」の意味で、人間を主語にとります。ここでは books が主語なので、「おもしろい」という意味の interesting を使った③が正解です。
- 5 彼は非常に長い演説をしたため、私たちはとても疲れた。  
 [5]⇒④ such a long speech  
 ▶ such (こんな、そんな)という言葉を使うとき、語順は「such a 形容詞 名詞」となります。また、似たような意味の so を使う場合には、「so 形容詞 a 名詞」となります。これらにあてはまるのは、④ such a long speech だけ。ちなみに、これを so を使って書き換えると、so long a speech となります。
- 6 私は昨日その会に参加できなかった。そして彼女もまた参加できなかった。  
 [6]⇒④ nor  
 ▶ nor という接続詞の後ろに、助動詞と主語を続けると、「～もまた……ない」という意味になります。また、前の文が be 動詞を使った文の場合には、「nor be 動詞 主語」という構文が使われることにも注意しておくこと。



□7 I can't ski, and my wife can't 7.



- ① too                      ② so                      ③ either                      ④ neither

[青山学院高等部]

□8 Let's go to the theater, 8 ?

- ① shall we                      ② don't you  
③ didn't you                      ④ will you

[東海大浦安高]

□9 Your parents went to the concert, 9 ?

- ① don't you                      ② didn't you  
③ doesn't he                      ④ didn't they

[東海大浦安高]

□10 Don't close the door, 10 you?



- ① are                      ② do                      ③ shall                      ④ will

[東海大浦安高]

□7 私はスキーができないし、妻もできない。

7 ⇒ ③ either

▶「～も」という表現を肯定文の後ろに付け加える場合には too を使いますが、否定文のときには either を使わなければなりません。

□8 映画館に行きませんか。

8 ⇒ ① shall we

▶ Let's V. という文の後ろに付加疑問文を付けるには、shall という助動詞を使って、「....., shall we?」としなければなりません。ちなみに、Shall we V? も Let's V. と同じで、「Vしましょう」という意味になります。

□9 あなたの両親はコンサートに行きましたね。

9 ⇒ ④ didn't they

▶ 付加疑問文を作るときには、前の文の動詞に合わせて助動詞や be 動詞を選択しなければなりません。前の文が過去形の一般動詞の場合、助動詞は did を使います。そして、前の文が肯定文の場合、否定の形 (didn't) にします。後ろに置く代名詞は、前の文の主語に合わせることも忘れないように。答えは ④ didn't they です。

□10 ドアを閉めないでくださいね。

10 ⇒ ④ will

▶ 命令文の後ろに付加疑問文を付ける場合には、「....., will you?」という形を使います。ちなみに、Will you V? は「Vしてくれませんか」という依頼を表す重要表現です。



問2：日本文に合う英文になるように選択肢の語を並べかえ、空欄に入るものを選べ。

□11 週末は天気はよくないと思う。

- ◆ I \_\_\_\_\_ 11 \_\_\_\_\_ 12 \_\_\_\_\_ weekend.  
 ① will            ② over            ③ be            ④ the  
 ⑤ don't           ⑥ fine            ⑦ think        ⑧ it

[東海大浦安高]

□12 明日の天気はどうなるのだろう。

- \_\_\_\_\_ 13 \_\_\_\_\_ 14 \_\_\_\_\_ ?  
 ① weather       ② be            ③ will           ④ like  
 ⑤ tomorrow    ⑥ the           ⑦ what

[成蹊高]

□13 この川の水はなんてきれいなんだ。(1語不要)

- \_\_\_\_\_ 15 \_\_\_\_\_ 16 \_\_\_\_\_ !  
 ① a            ② this           ③ what           ④ water  
 ⑤ clean       ⑥ river          ⑦ has

[法政一高]

□14 彼はなんて馬鹿なことを言ったんだろう。

- ◆ \_\_\_\_\_ 17 \_\_\_\_\_ 18 \_\_\_\_\_ !  
 ① said           ② a            ③ he            ④ what  
 ⑤ thing          ⑥ foolish

[大妻中野高]

□15 2階へ行って、お父さんにすぐ来るように言いなさい。

- Go \_\_\_\_\_ 19 \_\_\_\_\_ 20 \_\_\_\_\_ downstairs at once.  
 ① and           ② tell           ③ come          ④ upstairs  
 ⑤ to            ⑥ Father

[日大豊山高]

□16 写真が同封された手紙を受け取ったとき、彼はなんと興奮して見えたことでしょう。

- ◆ \_\_\_\_\_ 21 \_\_\_\_\_ 22 \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_ with some pictures in it!  
 ① when          ② looked       ③ received      ④ how  
 ⑤ he            ⑥ he            ⑦ excited       ⑧ a letter

[海城高]

□11 I don't think it will be fine over the weekend.

11 ⇒ ⑧ 12 ⇒ ⑥ (5-7-8-1-3-6-2-4)

▶ it という代名詞は、漠然と天気や明暗などを表して使うことができます。ここでは、I don't think の後ろに、名詞節を作る接続詞の that が省略された形を使います。「週末に」は over the weekend といいます。

□12 What will the weather be like tomorrow?

13 ⇒ ① 14 ⇒ ④ (7-3-6-1-2-4-5)

▶ What is ~ like? は「～はどのようなものですか」という意味の重要表現。この文で使われている like は、「～のような」という意味の前置詞です。the weather will be ~ を疑問文にすると、will が the weather の前に置かれます。

□13 What clean water this river has!

15 ⇒ ⑤ 16 ⇒ ② (3-5-4-2-6-7) 不要=① a

▶ 「What (a) 形容詞 名詞 S V !」は、「なんと…な～なのだろう」という意味の驚きを表す構文で、このような文のことを感嘆文といいます。water は不可算名詞なので、a は付きません。なお、感嘆文には、「How 形容詞 [副詞] S V !」という形があることに注意しておきましょう。

□14 What a foolish thing he said!

17 ⇒ ⑥ 18 ⇒ ③ (4-2-6-5-3-1)

◆ ▶ 「What a 形容詞 名詞 S V !」は、「なんと…な～なのだろう」という意味の驚きを表す表現。このような文のことを感嘆文といいます。感嘆文には、「How 形容詞 [副詞] S V !」というもう1つの形があることに注意しておきましょう。

□15 Go upstairs and tell Father to come downstairs at once.

19 ⇒ ② 20 ⇒ ⑤ (4-1-2-6-5-3)

▶ upstairs や downstairs は副詞ですから、前に前置詞を付けて × go to upstairs や × come to downstairs としてはなりません。同じように、前に to や in などの前置詞を付けない副詞には、abroad (外国へ、外国で) があります。ちなみに、自分の父を指すときは固有名詞扱いにして、無冠詞で Father と表すこともできます。

□16 How excited he looked when he received a letter with some pictures in it!

21 ⇒ ⑦ 22 ⇒ ② (4-7-5(6)-2-1-6(5)-3-8)

▶ 「How 形容詞 [副詞] S V !」は、「なんと…に S は V するのだろう」という意味の感嘆文の表現。look excited で「興奮しているように見える」の意味を表します。また、when S V という接続詞を使った表現は「S が V するとき」という意味になります。



- 17 メアリーか妹のどちらかが昼食を作らなければなりません。

\_\_\_\_\_ 23 \_\_\_\_\_ 24 \_\_\_\_\_ lunch.  
 ① make      ② sister      ③ either      ④ has  
 ⑤ Mary      ⑥ her      ⑦ to      ⑧ or

[志学館高]

- 18 あなた宛の手紙が来ています。

\_\_\_\_\_ 25 \_\_\_\_\_ 26 \_\_\_\_\_ .  
 ① letter      ② is      ③ here      ④ a  
 ⑤ you      ⑥ for

[正則高]

- 19 教室には誰もいない。

\_\_\_\_\_ 27 \_\_\_\_\_ 28 \_\_\_\_\_ .  
 ① any      ② the      ③ in      ④ isn't  
 ⑤ there      ⑥ boy      ⑦ classroom

[正則高]

- 20 あなたは、少しも疲れていないみたいだ。(2語不要)

You \_\_\_\_\_ 29 \_\_\_\_\_ 30 \_\_\_\_\_ .  
 ① a      ② tired      ③ all      ④ little  
 ⑤ at      ⑥ look      ⑦ not      ⑧ do

[東海大浦安高]

- 17 **Either Mary or her sister has to make lunch.**

23 ⇒ ⑧ 24 ⇒ ④ (3-5-8-6-2-4-7-1)

▶「AかBのどちらか」は、**either A or B** という形を使います。「どちらか(1人)」ですから、それに続く動詞は三人称単数になります。また、**neither A nor B** だと「AもBもどちらも……ない」、**both A and B** は「AとBの両方」という意味になります。

- 18 **Here is a letter for you.**

25 ⇒ ② 26 ⇒ ⑥ (3-2-4-1-6-5)

▶ **Here is ~** は、「ここに～があります」という意味の会話表現。これは、**There is ~** (～がいる, ～がある) という存在を表す構文の親戚です。この Here や There の後ろの be 動詞は、後ろに続く名詞に合わせることに注意。名詞が複数形なら、is ではなく are になります。

- 19 **There isn't any boy in the classroom.**

27 ⇒ ④ 28 ⇒ ③ (5-4-1-6-3-2-7)

▶ **There is ~** は、「～がいる, ～がある」という意味で、存在を表す重要構文。この構文での be 動詞の形は、後ろに続く名詞に合わせなければなりません。not .... any ~ (1つの～も……ない) では、any の後ろは単数名詞なので、ここでは isn't が使われることに注意しましょう。

- 20 **You do not look tired at all.**

29 ⇒ ⑥ 30 ⇒ ⑤ (8-7-6-2-5-3) 不要=① a, ④ little

▶ **not .... at all** は、「全く……ない」という完全な否定を表す重要表現。「少しも」につられて④ little を使わないように注意しましょう。また、「look ...」で、「…に見える」という意味になることに注意しましょう。

CHECK YOUR LEVEL	1st TRY	2nd TRY	3rd TRY	▶ 0 ~ 19 点 ⇒ <b>Work harder!</b> ▶ 20 ~ 24 点 ⇒ <b>OK!</b> ▶ 25 ~ 28 点 ⇒ <b>Way to go!</b> ▶ 29 ~ 30 点 ⇒ <b>Awesome!</b>
	30点	30点	30点	